

# 平成 28 年熊本地震に関する アンケート報告



熊本県養護教諭研究会

# も く じ

I	あいさつ		
	熊本県養護教諭研究会会長	奥井 誉子	1
	熊本県小中学校教育研究会養護教諭部会会長	大園 隆明	2
	熊本県養護教諭研究会前会長	田中茂都美	3
II	熊本地震に関するアンケート1（全県下）		4
	1 集計結果		5
	2 記述部		15
III	熊本地震に関するアンケート2（阿蘇・上益城・熊本市）		18
	1 集計結果		19
	2 記述部		29
	3 資料 やったこと編		34
	4 資料 あったらよかった編		42
IV	アンケート用紙・回答		47
V	編集後記		51



# 「熊本地震に関するアンケート報告」 発刊に寄せて

熊本県養護教諭研究会

会長 奥井 誉子

平成28年4月14日、16日の2度にわたる震度7もの熊本地震。あれから2年が経とうとしています。前震のとき、慌てて本棚とテレビをおさえたこと、本震の揺れの大きさに驚いて飛び起きたことが、昨日のこのように思い出されます。夜が明けて被害の状況が明らかになるにつけ、驚きで言葉を失ってしまいました。崩れ落ちた阿蘇大橋、益城町、西原村、南阿蘇村へと続く断層と亀裂、倒壊した多くの家屋。わが目を疑わずにはられませんでした。

新学期が始まったばかりの多くの学校が休校となり、子どもたちの安否確認や避難所対応に追われる日々。被害に差はあるものの、県内の養護教諭が子どもたちの命を守るために、そして心のケアのために、時には保護者や教職員の心のケアにも無我夢中で取り組んだ姿がありました。

そのような中、全国からかけつけてくれた養護教諭の仲間たち、心のケアの専門家、医療関係者などさまざまな支援に感謝しつつも、時に迷い悩みながら目の前のこと一つ一つに真摯に向き合う日々でした。

このような時にとは思いながらも、熊本県養護教諭研究会としてこの未曾有の地震の経験をまとめることはできないか、まとめるべきではないかとの思いから、学校組織の中で養護教諭としてあるいは学校職員としてどのように取組んだのか、県内の全会員を対象に熊本地震に関するアンケートを実施しました。とくに被害の大きかった上益城・阿蘇・熊本市の先生方にはさらに二次アンケートもお願いしました。当時のことを思い出させてしまうのではないかと不安もありましたが、先生方からは膨大な数の貴重な経験を書いていただきました。

この報告書は、私たちが養護教諭という立場で経験したことをまとめたものではありませんが、これからの危機管理、保健室運営、備品管理などの一助になればと思い、まとめたものです。現職の養護教諭のみならずこれから熊本県の養護教諭となっていく方にも伝えていくべきものだと思います。

今なお仮設住宅で暮らす子どもたち、仮設の校舎で学ぶ子どもたちがたくさんいます。シェイクアウト訓練の音で気分が悪くなる子ども、緊急地震速報の音に敏感に反応する子どもなど、目には見えない心の傷の大きさを痛感しています。1年後、3年後、5年ごとアニバーサリー反応が出ることが多々あるとお聞きしていますので、これからも長い目で見守っていく必要があると思っています。

最後になりましたが、本報告書作成にあたりアンケートにご協力いただいた県内養護教諭の先生方、ご協力いただいた先生方、そして何よりご尽力いただいた編纂委員の先生方に感謝申し上げ、発刊に寄せた挨拶といたします。



## 「熊本地震に関するアンケート報告」 発刊に寄せて

熊本県小中学校教育研究会養護教諭部会

会長 大園 隆 明

平成28年4月14日、16日と立て続けにこの熊本を襲った未曾有の大地震。誰しものが、恐怖の中で、これから一体どうなるのかと、先が見えないどうしようもない不安を抱え、そんな恐怖と不安と戦いながら学校は、地域の中で避難所となり、行政職員と教職員が一体となってその運営に携わりました。

避難所では、それぞれの学校、校長先生方のリーダーシップのもと、避難所運営がなされたと思いますが、全員が初めての経験であり、何をどうしていいのかわからない、また、自身も被害にあわれた教職員も多数いる中で、いわゆるパニック状態の学校も少なくなかったと思います。

しかし、我々公務員は、こういった非常時にまさに全体の奉仕者として身を削りながら、業務を遂行していかなければなりません。私自身も、避難所運営に携わる中、本校教職員の献身的な協力がどれほどありがたかったかは言うまでもありません。そのような状況の中、特に養護教諭の先生方には、避難者の方々へ寄り添いながら、感染症などへの対応、保健師・看護師さんとのやりとり、そして、私たち教職員の心のケア等々、各学校にて養護教諭としてのお立場で尽力され、学校再開後についても、健康診断、生徒の心のケアや緊急カウンセラーへの対応等、多大なる様々な対応をされたことかと思えます。

本報告書は、その地震に関し養護教諭として様々な角度からアンケート等を実施し、まとめられたものです。まさに、学校組織の中で、養護教諭が「教育職員」として、また、「専門職」として機能を果たされるべく、本報告書が発刊されています。

二度とこのような地震が起きないことを祈りつつも、様々な災害に備えるためにも、また、各方面における危機管理のため、本報告書が生かされるものと確信します。

最後になりましたが、本報告書作成にあたり、ご尽力いただきました編纂委員の先生方、ご協力いただいた各方面の方々に敬意を表しますとともに、関係の皆様から感謝申し上げ本報告書発刊に寄せた挨拶といたします。



## 「熊本地震に関するアンケート報告」 発刊に寄せて

熊本県養護教諭研究会

前会長 田中 茂都美

ドーンと突き上げるような突然の揺れに始まった大きな地震から、早いもので2年が経とうとしています。八代は震源地から少し離れてはいましたが、場所によっては大きな被害を受けました。私の勤務校の体育館は新しく耐震がしっかりとしているという理由で、一時期は700人を超える人の避難所として機能することになりました。

県全体の被害状況が分かるにつれ、県養護教諭研究会の第1回理事会、6月の研修会総会の開催はどうするのかという問題に頭を痛めたことが思い出されます。そして、中止の決断をした時に胸が押しつぶされそうになったことがつい昨日の事のようにです。

そんな中、全国の多方面からメールや手紙、電話をたくさんいただきました。特に強く心に残ったのは、東日本大震災で多くの命を失い、今もなお子どもに寄り添いながら心のケアに努めておられる先生方の作成された冊子を送っていただいたことです。

災害発生直後からの被害状況や養護教諭の対応についてつぶさにまとめてあるもので、大変参考になりました。また、ある日は励ましの電話がかかり「何かお役に立てることはないでしょうか。先生、頑張りすぎないでくださいね。ゆっくりでいいのですよ。」と語りかける電話の向こうの声に涙が出てきたことが思い出されます。それと同時に、自分たちもまだ大変な状況であるのにこうして他を思いやる心に感動すら覚えました。

平成28年度から全会員の先生方にご協力いただき熊本地震に関するアンケートを取らせてもらい、少しずつまとめてきました。今回、編纂委員の先生方を中心に、被災に関する私たち養護教諭のまとめとしてこのような形で残すことができましたことに感謝申し上げます。初めてのことに戸惑うことばかりで不安だけが先に立つ毎日でしたが、今、冷静になり、「ああすればよかった」「こうすればよかった」と思うことばかりです。また、数年間かかると言われている心のケアにつきましては、気を緩めることなく今後も関わっていかなければいけません。熊本県教育委員会をから発行されました「防災教育と心のケアハンドブック」やその他の防災教育やこころのケアに関する資料と共にいつでも手に取れる場所に置いて、何回も読み返して反省と備えとして活用いただければ幸いです。2年がかりでまとめに携わってくださった全会員の先生方に感謝申し上げ、発刊をお喜びいたします。

# 熊本地震に関する アンケート調査 1

(全県下)

平成 28 年 9 月 7 日～9 月 30 日

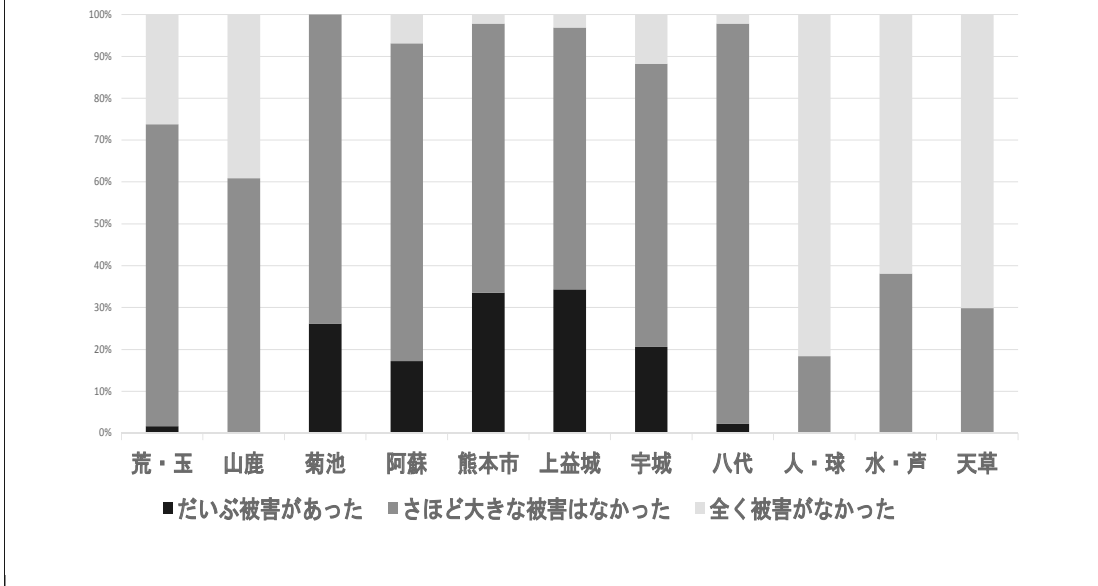
熊本県下で養護教諭が配置されている公立

小中学校 523 校

紙面により 17 項目について質問

回収率 100%

## 地震直後の学校の被害



「だいふ被害があった」と答えた地区は、上益城、熊本市、菊池、宇城、阿蘇の順に高値を示した。



靴箱が倒れる



図書室の本が飛び出す

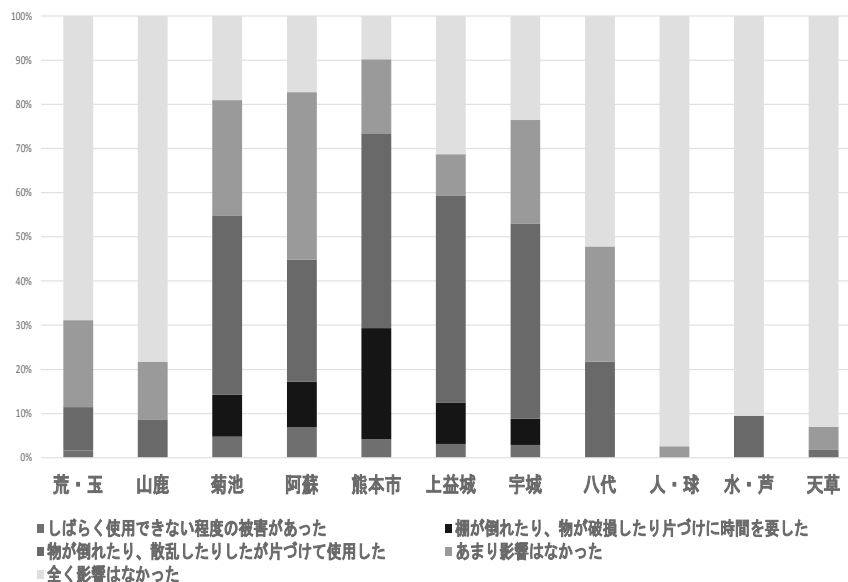


顕微鏡が落ち、散乱する



印刷機などが移動する

## 保健室の施設設備の被害状況 地区別



保健室の施設設備の被害状況について「しばらく使用できない程度の被害があった」「片付けに時間を要した」「片付けて使用した」の合計が 38%で、約 4 割の保健室で、何らかの被害を受けていたことがわかった。

地区ごとの震災の大きさと保健室の被害状況の大きさは比例していた。物が倒れたり散乱したりしたが片付けて使用したまでの被害を含むと学校数が多い熊本市が、被害も多くなっていた。



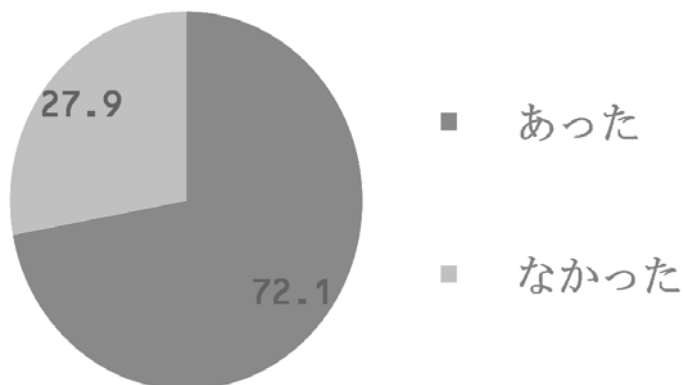
地震の被害が大きかった小学校の保健室



地震の被害が大きかった中学校の保健室

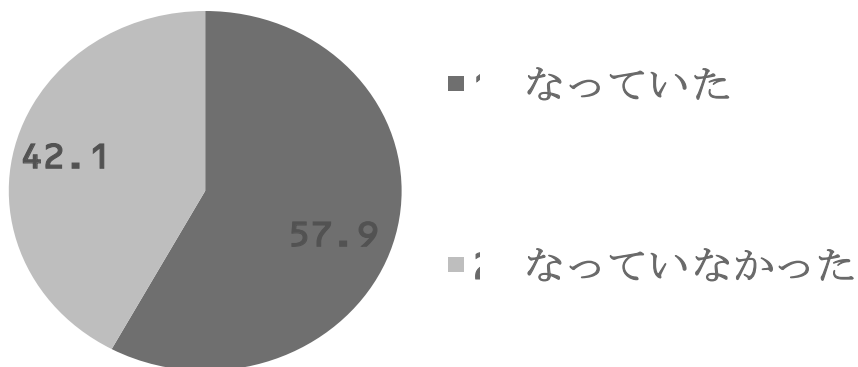


## 休校はありましたか



県内7割以上の学校で休校があり、学校数では、377校。  
地区の全校が休校したのは菊池、阿蘇、熊本市、上益城、宇城、八代で、一部休校があったのは荒尾・玉名、山鹿、水俣・芦北、天草。全く休校がなかったのは人吉・球磨であった。

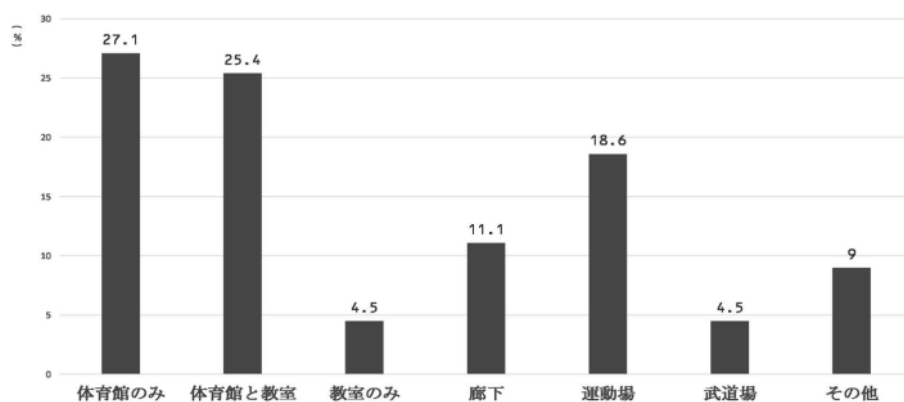
## 学校が避難所になっていましたか



避難所になっていた学校は、全体で57.9%。学校数では、303校が避難所となっていた。



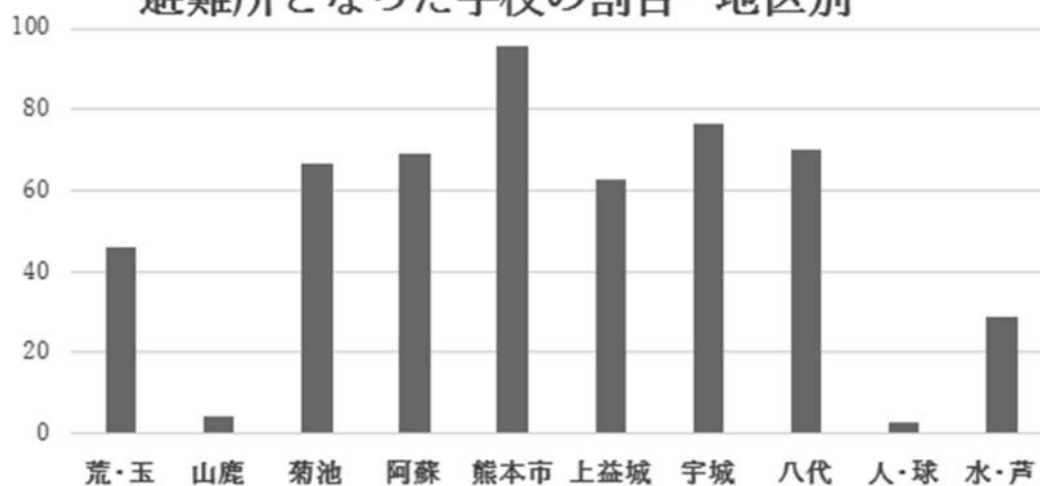
## 避難所となった場所



避難所となった場所は、体育館、体育館と教室、そして運動場などの順であった。運動場が多いのは、余震が続いたり、各々の事情があつたりして車中泊の車が多く、そのために開放されていたのではないかと考えられる。運動場は学校に避難している方の駐車場にもなっていた。

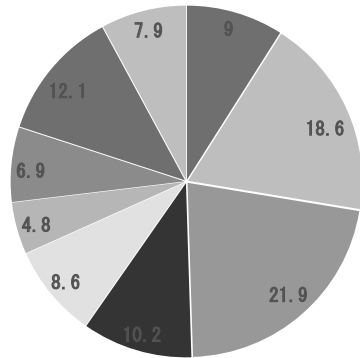


## 避難所となった学校の割合 地区別



地区別での避難所となった学校数は熊本市が多かった。人口が多いので避難した人数も多いことが考えられる。他の地区と異なっていたのは教室や廊下をも使用していたことで、避難してきた人が短時間に多数であった事が予想される。被害が少なかったと思われる地域でも余震が続く事や家屋の状態での避難する人がいたので学校も避難所になったようだ。

## あなたが避難所対応で行ったことは

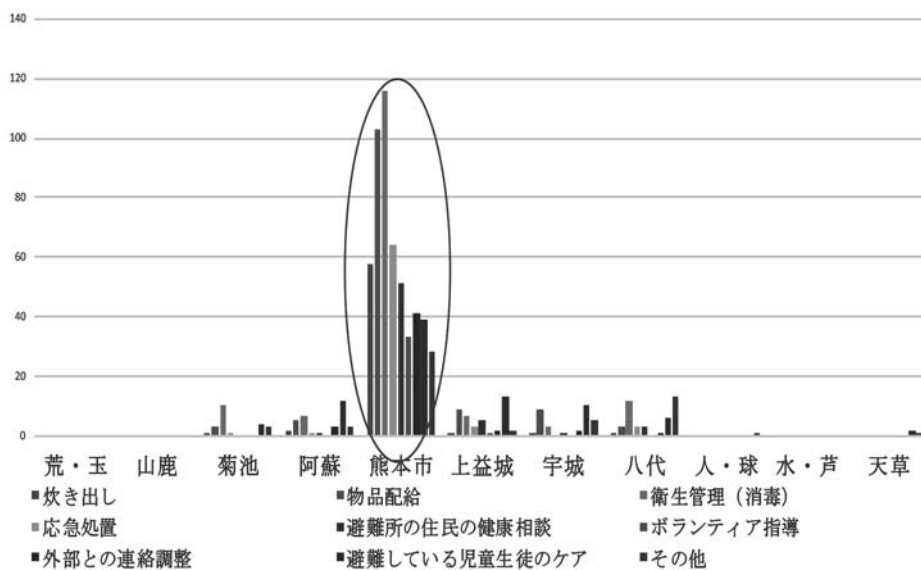


- 炊き出し
- 物品配給
- 衛生管理（消毒）
- 応急処置
- 避難所の住民の健康相談
- ボランティア指導
- 外部との連絡調整
- 避難している児童生徒のケア
- その他

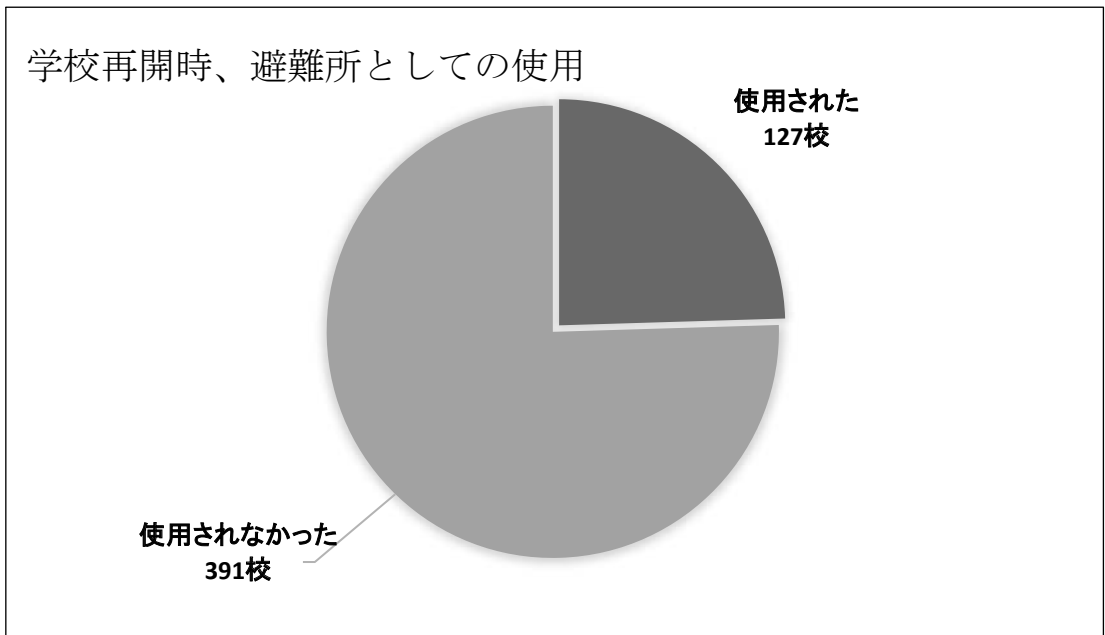
一番多かったことは消毒などの衛生管理で、集団における感染症予防の必要性が高かったと考えられる。以下、物品配給、避難している児童生徒のケアで目の対応であった。



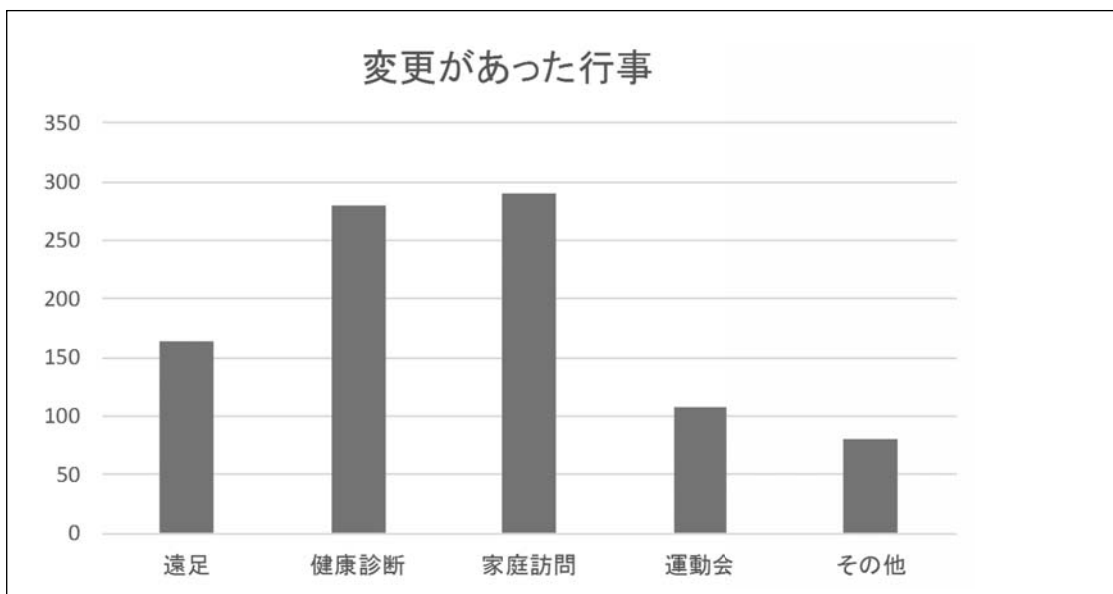
## 避難所対応 地区別



対応の内訳では、熊本市では他地区でも高率であった衛生管理や物品配給のほかにも、応急処置、炊き出し、避難所住民の健康相談など、多岐にわたっており特徴的であった。

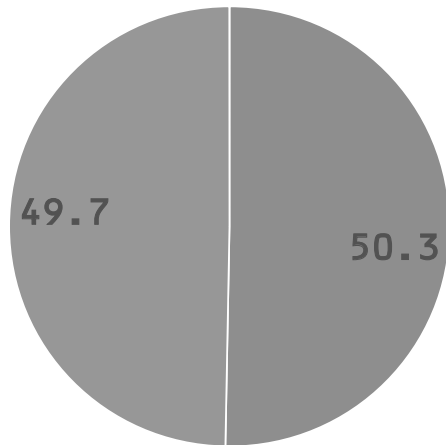


学校再開が多かったのは5月中旬ごろで、そのときには127校が避難所としても使用されていた。



この項目については、複数回答である。家庭訪問は地震後のケアのためにも必要であったし、新年度にクラス替えや担任が新しくなっていた場合は家庭環境を知る上でも、是非に必要であったと考えられる。同様に健康診断は実施時期が定められているので必ずあったものである。

## 給食の変更



- 1 あった
- 2 なかった

## 簡易給食



給食の変更があった学校は50.3%、243校。内訳は簡易給食が147校、給食中止が23校あった。多くの学校では震災前の給食になっているが、上益城では平成28年12月現在も震災前の給食になってはいない。益城町では町給食センターが被災し、平成28年度は6月1日より3月末まで業者による弁当給食となった。平成29年度は熊本市給食センター等の協力により、温かい給食が提供されている。

## 弁当給食



## 心のケアについて

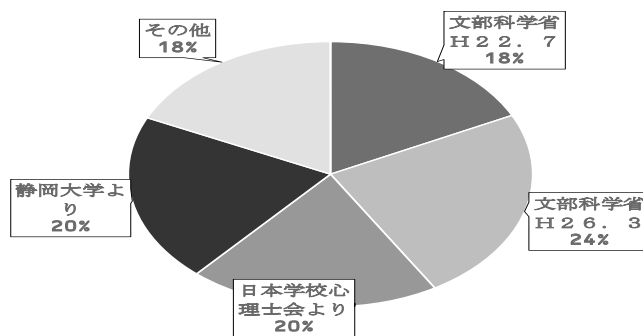
- 1 心のケアについて資料の配布や紹介（8割）
- 2 心のケアについて校内研修（5割）
- 3 心のケアに関する集団指導（6割）
- 4 心のケアについて保護者への啓発（7割）

保健便りやメール配信、集会、掲示物などの機会を活用しており、直接被害がなかった地区でも実施されていた。被害が大きかった地区ではSCやEARTHの講話などが実施されていた。

EARTHとは、阪神大震災を機に作られた兵庫県教育委員会の震災・学校支援チームである。



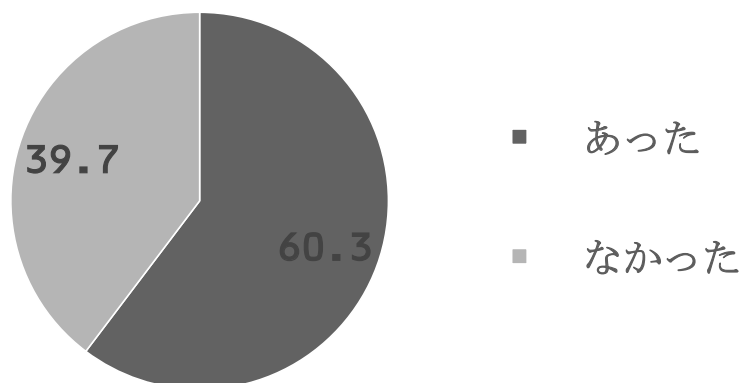
## 心のケアの配布



「平成26年度版の文部科学省」、「静岡大学」、「日本学校心理士会」の3つが主に資料として活用されていた。被害の大きい地区ほど配布回数が増える傾向であった。

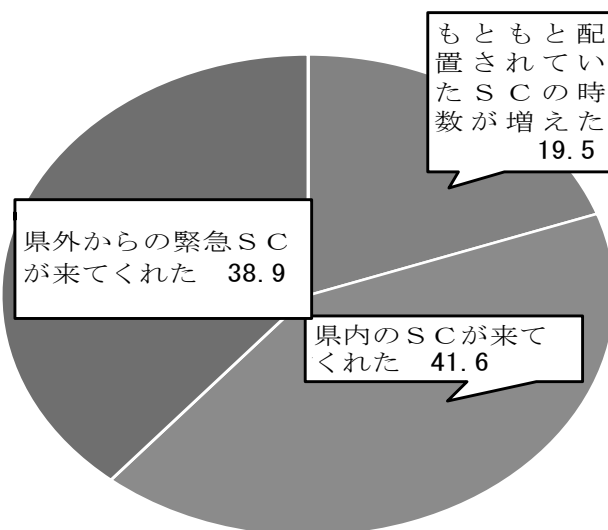


## 夏季休業中までにスクールカウンセラーの派遣があったか



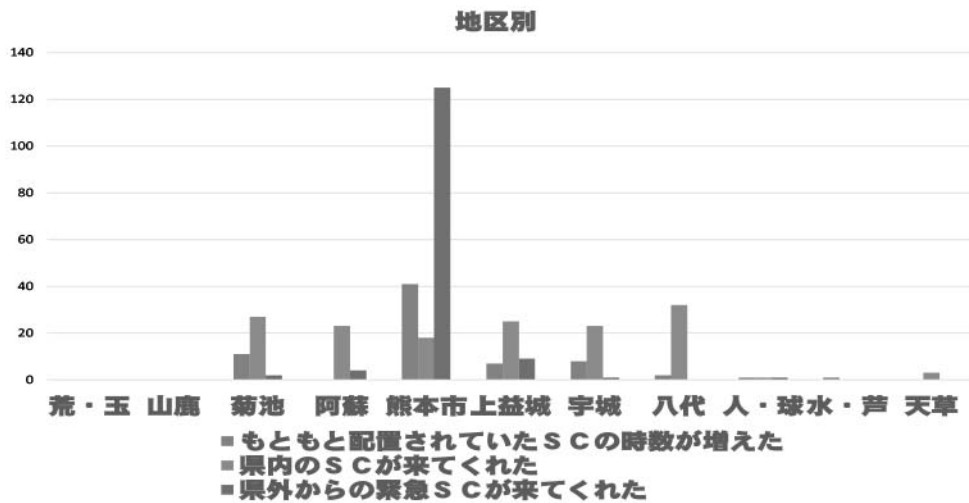
県全体で夏季休業中までにＳＣの派遣があったのは、60.3%と過半数を超えていた。

## スクールカウンセラー派遣の内容



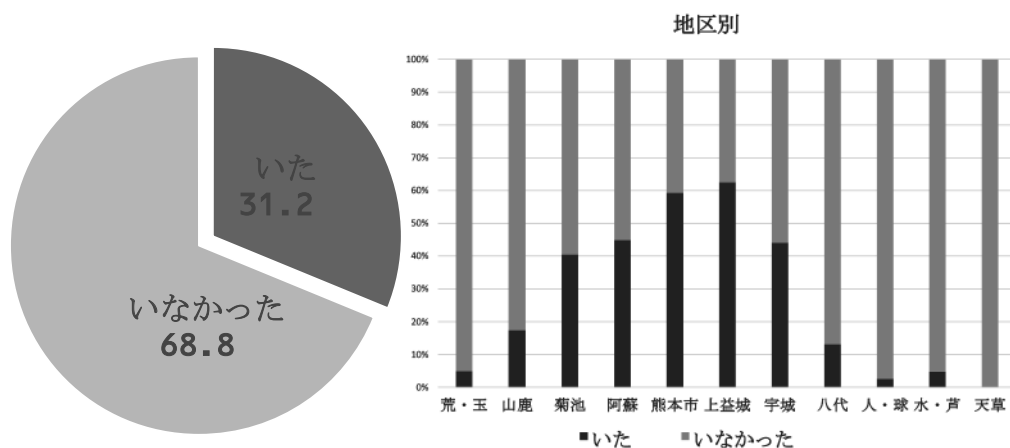
派遣の内容は、「県内ＳＣ」が41.6%、「県外からの緊急ＳＣ」が38.9%

## スクールカウンセラーの派遣 地区別



県外からのS Cの派遣は被害が大きかった地区でみられ、特に熊本市への派遣が目立っていた。全国の都府県や政令指定都市からであった。

## 2 学期開始時点での気になる児童生徒の存在



2 学期開始時点での気になる児童生徒の存在がいた学校は 31.2%であった。益城が最も多く、次に熊本市、阿蘇、宇城と被災の大きさとの関連を思わせる結果になっていた。



## 記述のまとめ

記述内容を、全体的な傾向と被害の程度で分けた3地区の傾向でまとめてみました。  
大の地区は、阿蘇、熊本市、上益城の3地区です。中の地区は、菊池、宇城の2地区です。  
小の地区は、荒尾・玉名、山鹿、八代、人吉・球磨、水俣・芦北、天草の6地区です。

### 【心のケア研修の内容について】

全県的な傾向として「子どもの心のケアのために」を資料として用い、非常時に現れる子どものストレス症状について研修していた。

被害が大の地区 担任向けに宮城県や兵庫県など外部からの支援者を講師にしていた  
心のサポート授業について模擬授業  
呼吸法などについての実習があったこと

被害が中の地区 資料を用いた研修で情報共有の方法、継続していくことを確認した  
相談の実施方法のやりかたの注意事項

被害が小の地区 健康観察における視点の重要性について  
心のアンケート実施方法とその後の活用について  
被災地からの転入生への対応について

### 【心のケア児童生徒を対象とした集団への指導の取組み】

全県的な傾向として、被害の大きさに指導時間の長さや内容が異なっており、設定時間も異なっていた。内容はストレスマネジメントに関してが多い。

被害が大の地区 授業をSCや養護教諭が行った  
体験型の授業（リラクゼーション、リラククス法について）を行った

被害が中の地区 全校集会でストレスについてSC、養護教諭が行った  
小学1年生にはぬいぐるみの配付があった  
高学年にはリラククス呼吸法を指導

被害が小の地区 校内放送、朝の会、帰りの会、2学期初めの体格測定で担任や養護教諭が行った  
保健だよりによる指導が多い  
くまモン自己回復プログラムを活用  
給食時に心が落ち着くような音楽を流していた

### 【心のケア保護者への啓発】

全県的な傾向としては、被害の程度により、関わり方が直接的になっている。子どもの心のケアについてと健康観察のポイントについての内容が多い。

被害が大の地区 PTA例会、PTA総会、臨時保護者会でSCや専門家チームからの講話  
学校保健委員会でSC講話、保護者参加でフォーラム  
親子レクレーションでスキンシップを図った  
保護者の安心が子どもの安心につながることを  
保護者もカウンセリングを受けることができることを周知  
保護者もいつでも連絡してよいことを伝える

被害が中の地区 学級だより、学年通信、メール配信、保健だよりの活用  
教育委員会からのリーフレット配布

被害が小の地区 保健だよりの活用が多い  
学校の相談窓口の周知

### 【スクールカウンセラーの派遣でよかった点】

全県的な傾向としては、児童生徒のみならず保護者にも対応してもらったことで安心してもらえた。

- 被害が大の地区 時数が増えたのでタイミングよく子どもや保護者の相談ができた  
教職員の相談もしてもらいアドバイスを受けていた  
養護教諭が心のケアや引継ぎ、今後の対応について相談にのってもらった  
S Cそれぞれの持ち味や専門があり、養護教諭にとっては勉強になった
- 被害が中の地区 今まで拠点中学校S C派遣から小学校派遣になり利用につながった  
今後のメンタルヘルスケアの計画について助言してもらった  
地震の影響ばかりではなく不安定な子どもへの対応ができた  
回数が増えたことで担任へのコンサルテーションをしてもらえた
- 被害が小の地区 相談者の有無にかかわらず派遣があった  
拠点校中学校から近隣の小学校からの要請に派遣がすぐにできた  
コミック会話、ソーシャルスキルトレーニングなどを教えてもらえた  
家庭環境の悩みを保護者が相談することができた

### 【スクールカウンセラーの派遣で今後につながる改善点】

全県的な傾向として、S Cが短期間で替わることで児童生徒に不安があった。S Cが替わるたびに学校の状況の説明に時間を費やした。カウンセリングの期日にあわせて児童生徒・担任・保護者への調整に多くの時間を使った。

- 被害が大の地区 小学生が中学校へ行ってのカウンセリングだったので不安を持っていた  
突然の派遣でその対応が大変だった  
対象者の選定が難しかったので、そこもS Cに相談にのってもらえると良かった  
ブロックでの情報交換会が早期にあれば知恵を出し合い活用がもっとできていた  
報告など様々変更が多く事務作業に追われた  
S Cのマネジメントに追われた。担当者をサポートするための教師の加配をお願いしたい（特に養護教諭未配置校では大変だった。）  
負担感が大きかった
- 被害が中の地区 内容の報告は必要なことであつたのだろうか。多くの時間がかかった。  
指定された時間が午前だったが、保護者は午後からが来やすかった  
指定された1日に相談者をあわせることは難しかった  
県と熊本市の対応の差について保護者が知っていて不安に思っていた  
1回のみのカウンセリングは今後はどうつなげていくのか課題であつた  
心と体のチェックリストの活用について難しかった  
1回きりの派遣であればS Cの数を増やしてもらい、多くの相談者に対応してほしい
- 被害が小の地区 あまり意識付けしない方がよい子どももいた  
S Cの派遣があつたが対象児童がいなかったなので、必要なところに譲りたかつた  
カウンセリングの必要数にあわせて配置時間を調整してもらえるとよかった

【今回の地震を通して危機意識を持ったこと】

全県的な傾向としては、保健室のベッド周りの棚の固定や配置、落下物の除去を行った。保健室関係の備蓄品が必要だと感じた。学校管理下での被災を想定したことや様々なことを考えた。

被害が大の地区 地域との関係など日常の取り組みが試されることがわかった  
道路が寸断されすぐに学校へ行けない  
道路の状況により回り道などで通勤距離や時間がかかり教職員が疲労してくる  
停電・断水・負傷者多数を想定した場合の訓練が必要  
日中に起き、けが人が多数の時のトリアージはどうするか  
サーバーダウンにより使用PCの制限があった  
東日本大震災の教訓が生かされていなかったと感じた  
水道水使用再開に向けて行政や検査機関、薬剤師との連携  
トイレについて管理する人がいなかった、洗剤のストック必要、土足について  
トイレを大人も使うのでスリッパの準備、ストック  
学校再開後の体育大会で肉離れが多かった  
日頃から発達にアンバランスがある児童生徒は心の揺れが大きかった

被害が中の地区 引き渡し訓練の必要性  
年度当初だったので家庭への連絡網、方法ができていなかった  
スムーズな避難のための安全点検の必要性  
危機意識が甘かったことを痛感し、危機管理マニュアルの必要性を感じたが個人ではなかなか作れていない  
体育館や教室が使用不可になったため教室に使用し、不登校対応の場が不足した

被害が小の地区 海の近くだったので津波への対応訓練を行った  
校外学習中の避難訓練の必要性（修学旅行中、宿泊訓練教室中、見学旅行、遠足など）  
実際に経験していない分、危機管理、避難所対応、安全管理、衛生管理などについて不安が大きい  
災害を想定したシュミレーションが日頃から必要  
もしも、保健室が使用されるときのことを考えて個人情報施錠できる場所へ移し保管した

# 熊本地震に関する

## アンケート調査 2

(阿蘇・上益城・熊本市)

平成 28 年 10 月 1 日～10 月 7 日

阿蘇、上益城、熊本市の公立小中学校

養護教諭 212 人

紙面により 15 項目について質問

記述にて回答

回収率 100%

はじめに

地区によって行政のかかわり方などが異なり、養護教諭としての動きにも違いがみられました。比較的被害が大きかった地区の養護教諭が、震災直後から行っていた活動や避難所で大変だったこと、今後の課題などについてまとめたことを以下に載せています。

## 地震直後 安否確認について

- ・ 家庭訪問、避難所訪問
- ・ 電話連絡
- ・ 安心メールで返信確認
- ・ 確認後の集計、一覧表作成

地震直後は、担任を中心に、職員で手分けして安否確認をした学校がほとんどだった。熊本市では安心メールを活用した地区も多く大変有効だった。また、確認後の記録や一覧表作成など、集計活動を行った養護教諭が多かったようだ。



地震被害が大きい地域の小学校

4月18日（月）  
8：20 職員朝会  
9：00～11：00 別紙  
被害状況把握、後片付け、安全点検  
11：00～12：00（担任）  
児童の安否確認、被災状況確認  
13：00～15：00  
Aグループ：校舎外の学校の安全点検  
Bグループ：通学路点検  
Cグループ：保健室・事務室・図書室  
15：00  
職員集合、状況確認、

地震被害が小さい地域の小学校

休校中

## **健康状態の確認について**

- ・ 安否確認の際、いっしょに確認
- ・ 確認後、情報共有

※職員へチェックポイントを提示  
(けが・体調不良の有無、食事、睡眠等)

休校中の健康状態の確認は安否確認と同時に行われていた。養護教諭の動きとして多かったのは、「職員へチェックポイントを提示した」でその他に「避難所でアンケートを実施した」、「持病のある児童に薬の確認電話をした」があった。

休校中

## **児童・生徒に対して行ったこと**

- ・ 心身の健康状態の把握と再開後の  
    カウンセリング計画
- ・ 心のケアに関する資料提供
- ・ 心のアンケート調査の検討
- ・ 健康診断の日程変更
- ・ 健康観察表の検討、見直し      など

休校中、児童・生徒に対して行ったことは、子どもたちの安否確認や健康状態把握と並行して、様々な再開に向けた準備が行われていた。  
一方で、避難所になった学校では、再開への準備になかなか取りかかれない状況もあった。

休校中

## 施設・設備について

- ・ 校舎内外・通学路の安全点検
  - 危険箇所の表示
  - ひび割れ、段差の補修
  - 教室のかたづけ、掃除
  - 遊具の固定
  - 電気、水道、ガスの確認      など

施設・設備については多くの学校で被害があり、安否確認とともに被害状況の確認をするなどの安全点検が最優先だったようだ。また、教室や保健室の片付けや掃除に多くの時間を要したようであった。



休校中

## 環境衛生面について

- ・ 飲料水、トイレ用水の確保
- ・ 水道水の点検
- ・ トイレの衛生管理
- ・ 感染症対策用品の準備  
(マスク、使い捨て手袋、消毒剤など)

環境衛生面では、断水により水道やトイレが使用できず仮設トイレの衛生管理や感染症対策が大変だった。復旧後は、ほとんどの学校で水質検査を依頼した。避難所では、行政が管轄し、感染症対策が整っていたという意見もあった。



避難所に貼られた行政からの掲示物

休校中

## 執務でよかった点

- ・ 教職員間の協力、団結
- ・ 養護教諭部会の開催及び情報交換
- ・ 職員研修

被災した職員がいる中、協力や団結力があつた。各校の状況、今後の対応、心のケアに関する資料などについて、養護部会・ファックス・メール等での情報交換ができた。心のケアについて職員研修を行った。



休校中

## **執務で大変だった点**

- ・ 4月当初にあった災害
- ・ 外部対応
- ・ 職員の被災
- ・ 停電による影響
- ・ 断水による影響

転勤直後や学期が始まったばかりで、児童の状況把握が難しかった。  
次々と来られる支援などの外部の受け入れや活用などを即断しなければならず戸惑った。ライフラインの復旧は学校再開の要だった。

休校中

## **執務の改善点**

- ・ 災害後対応の危機管理マニュアルの作成、見直し
- ・ 臨時の養護部会の開催、他校の動きの把握
- ・ 養護部会としての支援

学校に応じた対応マニュアルの作成が必要。子どもの対応や環境検査など共通事項について養護部会を開く事ができるとよかった。  
被害の大きな地域へ支援に行く事ができたらよかった。

## 避難所

### 対応で良かった点

- ・ **学校再開、心のケアへの専念  
(行政との役割の明確化)**
- ・ **各種団体からの支援**
- ・ **専門家の指導による感染症対策、  
衛生管理**

行政との役割区分ができた地区では、学校再開の準備や心のケアに専念できた。

中学生が活躍する姿を見る事ができた。

ボランティア医療団体 DMAT の常駐で、衛生面のことを医師や看護師と相談する事ができた。

## 避難所

### 対応で大変だった点

- ・ 保健室の物品の持ち出し
- ・ 保健室の使用に伴う個人情報管理
- ・ 別用途の部屋となった保健室の使用制限
- ・ 避難所対応の戸惑い、疲労

避難の初期では、保健室の物品の持ち出しがあり、戻ってこなかった物もあった。保健室が支援団体の常駐になった為、児童生徒の個人情報を職員室や金庫に移動させた。平常通りに使用できず不便感があった。戸惑いが多く、職員の疲労が心配された。

## 避難所 対応の改善点

- ・ 避難所の備蓄品の保管
- ・ 学校（日中）での被災の場合の対応  
マニュアル
- ・ 記録
- ・ 写真

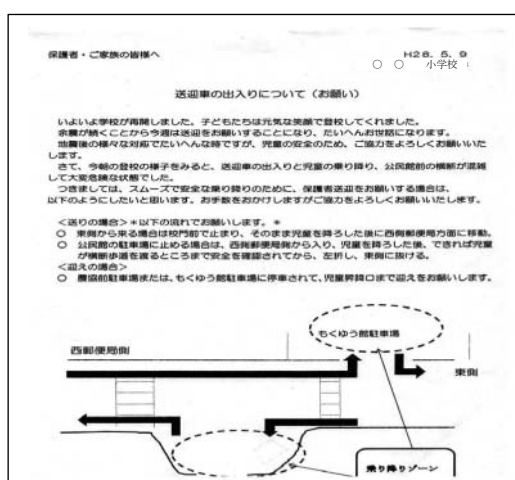
学校で起きた場合の対応を職員間できちんと話し合う必要がある。  
日常の様子や、何をしたかなど記録や写真を残しておくよかった。

熊本市では学校に備蓄品があった。他の地域ではない所があり、備蓄品の必要性を感じた。



5月9日(月) 学校集会・避難訓練	
健康観察	8:20～ 8:25
学校集会	8:25～ 8:40
1校時(避難訓練)	8:45～ 9:30
2校時	9:40～10:25
3校時	10:35～11:20
帰りの会・連絡	11:20～11:40
下校(ホール)	11:45～

職員や保護者向けに出されたレジュメなどが数多くあった。保健室関係だけでなく、学校全体の動きが分かるように残しておくことも必要である。東日本大震災から逃れてきた児童がいたので、配慮したやり方にした。



学校再開時に余震が続くことから車で送迎を保護者に協力していただいたが混雑したので、交通安全のために送迎者の出入りについてお願いした文書である。状況は各校で異なっていた。

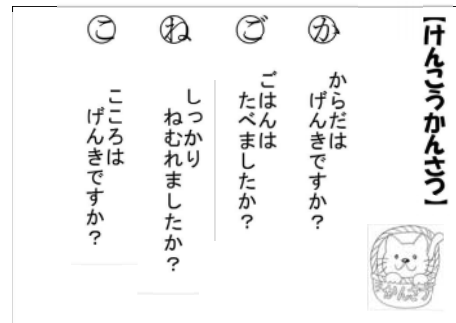
## 学校再開後

### **心身の健康観察の充実**

- ・教育委員会、文科省からの資料活用
  - 「心と体のチェックリスト」
  - 「こころとからだのけんこうかんさつ」
  - 「危機発生時の健康観察表」
- ・通常の健康観察の強化
- ・個別の健康観察カードの作成

学校再開後の動きの中で健康観察については、「心身の健康観察」ということで、項目を増やしたり、通常より時間をかけた学校が多かった。

子どもたちにもわかりやすいように、項目を減らし、キャッチコピーを作った学校もあった。



## 学校再開後

### **児童生徒へのアンケートの実施**

- ・教育委員会からの資料活用
  - 「心と体のチェックリスト」
  - 「こころとからだのけんこうかんさつ」
- ・学校独自のものを作成  
(個人カードや生活リズムチェック表など)

アンケート調査については、ほとんどの学校で行政からきた「心と体のチェックリスト」が活用されていた。実施時期や内容については、学校や生徒の実態に応じて検討が必要と思われるという意見が多かった。

学校再開後

## **相談活動の充実について**

- ・ 担任による面談、教育相談の実施
  - ・ 養護教諭による保健室来室者への対応
  - ・ 要相談者ピックアップ
    - S C、S S W、医療機関へのつなぎ
    - 家庭訪問や避難所訪問の継続
- ※養護教諭加配による相談活動の充実

担任による面談やカウンセリングで、相談活動の充実が図られた。養護教諭の加配があった学校では、より丁寧な対応ができたが、熊本市で加配が遅れた学校は、養護教諭が相談活動の多くを担い、非常に多忙だった。

## **地震後の養護教諭の加配**

人 数 県内から16人、県外から15人

派遣先 阿蘇・菊池・熊本市・上益城・宇城

配 置 同一校担当、複数校担当

期 間 2週間、3週間、1年間

養護教諭加配について、研究会で把握している分では、被害が大きかった地区に、県内外から延べ31名の配置があつている。一人で一校を担当するところ、複数校を担当するところとあり、配置期間も様々である。その職務内容も派遣された学校の状況に合わせて行われた。

## 派遣養護教諭の保健指導

### 宮城県からの派遣養護教諭

#### 「心の健康」

東日本大震災における宮城県での被災状況、命の大切さや防災行動、自己回復力の話などの説明の後に発達段階にあわせた指導内容を行った。

- ・1,2年 紙芝居,呼吸法,ストレッチなど
- ・3～5年 不安になった時の方法など考える,呼吸法
- ・6年「防災のクロスロードゲーム」



## 学校再開後

### 学校医・学校薬剤師との連携

- ・学校医の被災状況の確認
- ・児童生徒の様子など情報提供
- ・健康診断の日程調整
- ・学校薬剤師へ水質検査の依頼

など

健康診断の時期と重なったために、日程変更を余儀なくされた学校が多かった。

一時避難で転出した児童生徒の健康診断ができなかった学校もあったが、学校医の協力で健診を数回実施して、無事に健康診断を終えた学校もあった。

【休校中】

1 安否確認についてしたこと

実際にやったこと	気づき・今後に向けて	【参考にした資料】 ・子どもの心のケアのために (平成文部科学省) ・学校における子どもの心のケア ・静岡大学の資料 ・EARTHの資料 ・いわて心のサポートの資料 ・ほっと安心手帳(内閣府) ・車中泊をされる方へ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任のフォロー</li> <li>・避難所訪問</li> <li>・家庭訪問</li> <li>・電話連絡</li> <li>・安心メール</li> <li>・確認後の集計、一覧表の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任を中心に、職員で手分けして安否確認をした学校がほとんどだった。</li> <li>・確認後の記録や一覧表作成など、集計活動を行った養護教諭が多かった。</li> <li>○緊急連絡先カード整備の必要性 (前年度の紙データを残しておくとい)</li> </ul>	

2 健康状態の確認についてしたこと

実際にやったこと	気づき・今後に向けて
<ul style="list-style-type: none"> <li>・安否確認時に合わせて確認</li> <li>・避難所に向いて確認</li> <li>・保健だよりの発行</li> <li>・情報の収集、共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員へ健康観察のチェックポイントを提示した養護教諭が多かった。</li> <li>○一目で見てわかるような情報共有するための工夫 (色シールや表情マークを使用した集計表等)</li> </ul>

3 学校再開に向けての準備期間として養護教諭が行ったこと

ア 児童生徒に対して行ったこと

実際にやったこと	気づき・今後に向けて
<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身の状態の把握</li> <li>・避難所訪問時の声かけ</li> <li>・カウンセリングの計画・調整</li> <li>・個別の健康観察の内容検討</li> <li>・心のアンケート調査の検討・提案</li> <li>・保健だより作成</li> </ul>	

イ 施設・設備に関して(通学路なども含めて)行ったこと

実際にやったこと	気づき・今後に向けて	【感染予防の方法】 ・アルコールスプレー ・除菌のウエットシート ・消毒薬 (次亜塩素酸ナトリウム等) ・嘔吐物処理セットの設置
<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全点検、危険箇所の表示</li> <li>・片付け、修理、掃除(教室、トイレ、水道)</li> <li>・通学路点検(安全マップ)</li> <li>・間借り校舎の下見点検</li> <li>・保健室の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健室の物品がなくなっていた。</li> <li>○事前に棚などの転倒防止策を講じておく。 (非常時を想定した日頃からの安全点検)</li> </ul>	

ウ 環境衛生に関して(ライフラインなど)行ったこと

実際にやったこと	気づき・今後に向けて	【断水している場合の対応】 ・手洗水のタンク設置 ・アルコール消毒薬の設置 ・飲料水の確保
<ul style="list-style-type: none"> <li>・水質検査 町村教委、学校薬剤師との連携</li> <li>・清掃、消毒(教室、保健室、トイレ)</li> <li>・仮設トイレの整備</li> <li>・給食の対応</li> <li>・熱中症対策</li> <li>・仮設教室の照度測定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・断水により水道やトイレが使用できず、衛生管理や感染症対策が大変だった。</li> <li>○日頃から衛生材料の備えをしておく。</li> <li>○断水時の対応マニュアルの必要性</li> </ul>	

エ その他

実際にやったこと	気づき・今後に向けて
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修、資料配付</li> <li>・児童健康診断の日程調整</li> <li>・職員のメンタルヘルス</li> <li>・保護者への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修等で心のケアに関する研修を行った学校が多かった。</li> <li>○職員の心のケアのためにグループワークを実施</li> </ul>

【休校中】

4 大変だった点

ア どう動いていかわからなかったこと

- ・赴任直後だったため、子どもの顔と名前がわからなかった。
- ・統合直後だったので児童生徒の情報がわからなかった。
- ・緊急時の養護教諭の執務についての知識、経験

イ 心のケアについて

- ・アンケートや健康観察の作成、提案
- ・資料の収集、精選
- ・SCの派遣

ウ 停電、断水

- ・パソコンが使用できなかった。
- ・安全な水の確保、衛生管理
- ・相談機関がなかった。(保健師・薬剤師も多忙)

エ 来校者の対応

- ・自衛隊、マスコミなどの校内立ち入り
- ・震災を経験した団体

オ 職員

- ・健康状態、通勤経路が変わる
- ・心のケア
- ・避難生活をしながらの職務

カ その他

- ・子どもたちの生活の把握
- ・教室、校内の整備
- ・健康診断の日程変更
- ・学校が被災し、移転の準備
- ・他職員との意識のずれ
- ・町の養護部会が開催できなかった
- ・保健関係の書類の整備

4 良かった点

- ・同じ地域の養護教諭同士で情報交換できた。養護部会を開催した。
- ・校内で心のケアについて共通理解できた。職員間の団結
- ・保護者や職員がの炊き出しや差し入れあたたかさが身にしみた。
- ・ボランティアを頑張る生徒の姿
- ・避難所で地域の方とふれあい
- ・保護者会で話げできた。
- ・職員研修
- ・学校再開前に資料づくり、体制づくりができた。

4 今後の改善につながると思われる点

- ・臨時の養護部会の開催
- ・被災の大きかった地域への手伝いに行ける体制づくり
- ・資料の活用(PDFが多かった)
- ・備蓄品、備蓄場所、耐震対策
- ・職員の心のケア
- ・災害後の対応マニュアル(支援者のための)



## 【避難所対応】

### 大変だった点

- ・保健室の物品の貸し出し、紛失
- ・避難者のマナー(校舎の利用の仕方、衛生面)
- ・断水の中での衛生管理
- ・避難所の医療センターとしての保健室運営
- ・行政が対応するまでの避難所の対応
- ・電話等の対応、回線の不足
- ・物資の配給所となり、職員が対応
- ・保健室が避難所となっていた
- ・避難所にいる子どもたちへの対応

### 医療に近い職種としての養護教諭として

初期には支援チーム(保健師、保健センター)が入るまでの役割

- ・認知症の方へのトイレなどの相談支援
- ・避難弱者と専門機関へのコーディネート

支援チームが入ってからの役割

- ・DMATと学校とのコーディネーター
- ・避難弱者と専門機関へのコーディネート

医療チームに関わる全県下を見通すコーディネーターの養成と運営の必要性。

養護教諭は複数体制が有効であった。休校中であれば、被害が少なかった近隣の地域の養護教諭がいけるような体制づくりが必要。ここでは、医療機関や専門機関などは地域とのかかわりが大きいので、近隣の地域を知っている養護教諭がよりよいと思われる。

### 良かった点

- ・避難所運営は行政や他県からのボランティア
- ・中学生がよく頑張っていた
- ・学校施設の開放(図書館など)
- ・自衛隊や災害支援ナースの援助
- ・ボランティア医師団AMDAの常駐
- ・学校医・学校薬剤師からの支援

### 避難所運営の確認

主体は行政なのか学校なのか  
行政機能がストップした時の危機管理の主体は

### 避難所地図の作成

校内地図  
体育館内の地図  
避難者の名簿  
学校内の居住位置確認

### 避難所用の物品のストック

- ・保健室がストックしている物品の場所の確認(階段下の施錠してある倉庫などは開錠できずに使用できないことも想定)
- ・備蓄倉庫があれば中身の確認
- ・搬入されたものの確認  
毛布・救急用品・衛生用品

### 今後の改善につながると思われる点

- ・日々の様子や取組の記録
- ・保健室の物品のストックや管理
- ・避難所運営が軌道に乗るまでの職員の動きや衛生管理
- ・避難所での子どもたちの生活について
- ・事前の準備や研修
- ・避難所に心のケア等の掲示物

【学校再開後】

6 心身の健康観察の充実

実際にやったこと	気づき・今後に向けて
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の健康観察</li> <li>・日頃の健康観察の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の健康観察を四つの視点(体の調子かどうか・ご飯は食べられたか、眠れたか、心は元気か)を持った行うことで心身の状態を把握した。四つの視点の頭文字を使い「かごねこ健康観察」として行った。</li> <li>・毎朝の健康観察について再開後3ヶ月は特に細かく健康観察をしてもらうよう職員会議で提案した。</li> </ul>

7 児童生徒へのアンケートへの実施・実態把握

実際にやったこと	気づき・今後に向けて
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「心とからだのチェックリスト」活用</li> <li>・担任による個別の全員面談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施時期や内容については学校や児童生徒の実態に応じて検討が必要と思われるが、適切な実施時期がわからなかった。</li> <li>・面談の結果からSCにつなげた</li> </ul>

8 保護者・担任へのアンケート実施・実態把握

実際にやったこと	気づき・今後に向けて
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員全体に独自のアンケート</li> <li>・共済組合のメンタルヘルス調査</li> <li>・職員にSC面談</li> <li>・保護者にもチェックリスト</li> <li>・保護者の面談希望調査</li> <li>・PTAの集まりでの資料配布や話</li> <li>・家庭での健康観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援する私たち教職員のメンタルヘルスの必要性</li> </ul>

9 学校医との連携

実際にやったこと	気づき・今後に向けて
<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断の日程調整</li> <li>・健康診断が受けられなかった児童の対応</li> <li>・歯科衛生用品の支給</li> <li>・検診時に相談</li> <li>・水質検査の協力</li> </ul>	

10 学校保健委員会

実際にやったこと	気づき・今後に向けて
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学校保健委員会の開催</li> <li>・校内組織で心のケアを検討</li> <li>・学校保健委員会の開催(健康課題や心のケア)</li> </ul>	

11 相談活動の充実

ア 児童生徒に対して

実際にやったこと	気づき・今後に向けて
<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任による面談</li> <li>・養護教諭による保健室での相談活動</li> <li>・アンケートから養護教諭の面談につなげた</li> <li>・登校しぶり・保健室登校</li> <li>・SCのコーディネート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな理由であれ、保健室の来室者には丁寧な対応を心がけた。</li> <li>・1学期は登校しぶりや保健室登校の児童が増えた。また、大きな声に敏感になり教室にいられない、涙が止まらない、睡眠不足などを訴えがみられた。</li> </ul>

イ 教職員に対して

実際にやったこと	気づき・今後に向けて
<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間をかけた問診</li> <li>・SCの面談</li> <li>・心配な職員の情報を管理職に伝えた</li> </ul>	

ウ 保護者に対して

実際にやったこと	気づき・今後に向けて
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の相談に対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健便りなどで「何でもご相談ください」と知らせていたことにより、保護者の相談が増えた。</li> <li>・地震後しばらくは、学校へ訪れる保護者や地域の方のテンションの高さが気になった。</li> </ul>

12 その他

ア職員との連携

実際にやったこと	気づき・今後に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員とは、児童生徒の情報交換をする機会が多くなった。</li> <li>・環境面(飲料水等)、教育面(生徒指導、心のケア等)において管理職と相談する事項が多かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災状況の違い</li> <li>・道路状況による通勤距離や時間の負担</li> </ul>	職員へのアンケート

イ

実際にやったこと	気づき・今後に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちへの言葉かけやスキンシップをを多くし、じっくり話を聞くように努めた。</li> <li>・休み時間等は、気になる子どもにそれとなく密着し、問題の早期発見に努めた。</li> <li>・支援を要する児童生徒が戸惑わないように、部屋割や対応を工夫した。</li> <li>・生徒保健委員会と地震後に設置された仮設トイレの清掃</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震後の避難訓練</li> <li>・時期や子どもの様子を見ての実施する判断が必要。</li> <li>・被災状況の違い</li> </ul>	避難経路確認 クラスごと 緊急警報不使用 「命を守る練習」 放送の配慮 避難訓練不参加の 選択肢の用意

ウ SC

実際にやったこと	気づき・今後に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援SCがありがたかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SC守秘義務が守られなかったことがあった。</li> <li>・緊急派遣SCの対応と健康診断実施時期が重なり、対応に追われた。(頻回に交代されるSCにその都度、学校や児童生徒の状況を説明しなければならなかった。</li> </ul>	緊急SCのための学校紹介シートの作成

エ 外部からの支援

実際にやったこと	気づき・今後に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・加配養護教諭がありがたかった(健康診断事務等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援教諭の仕事の分担についての対応がめまぐるしい。学校再開後に、県外とのシステムの違いや職種の違いがある中での負担が大きくなっていった。</li> <li>・様々なルートで(保護者の職場の知り合い、保健師の紹介、避難所をテレビで見て、など)NPO法人、医師、大学教授、県外の教員等たくさんの団体・個人が「話をしたい」と来校。外部の支援についての判断が困難。</li> <li>・職員間の声かけ(支援する側への思いやり、気配り)</li> <li>・被災状況の違い</li> </ul>	事務処理をメインでしてもらおうとよい

資料

やったこと編

児童の安否確認一覧（避難場所・被災状況・児童の様子・その他）

担任による電話連絡や避難所訪問、家庭訪問などで保護者から聞き取った情報を一覧表にして共通理解を図った。児童の様子については保護者に連絡が取れるたびに情報を更新していった。

【記入例】児童の様子・健康状態

青シール 元気 黄シール 要観察 赤シール 危険・注意

児童 氏名	避難場所	被災状況	児童の様子	その他
〇〇 〇	〇〇(地名)	地割れで 住めない	青	落ち着いたら引 越す
〇〇 〇〇	親戚宅 (地名)	全壊	青黄	5/9 気分△
〇〇 〇〇	〇〇避難所	全壊	赤黄黄	避難所でケガ、元 気なし 4/26 笑顔も出て きた 5/9 表情が硬い
〇〇 〇〇	実家(地名)	半壊(か たむいて いる)	黄青	4/25 発熱 5/25 片付けに帰 宅

実際の一覧表

The image shows a large grid table with columns for '6年' (6th year) and '5年' (5th year). Each column has sub-columns for '名前' (Name), '避難場所' (Evacuation location), '被災状況' (Disaster status), '児童の様子' (Child's condition), and 'その他' (Other). The cells contain various symbols (circles) and handwritten text, representing the data for each child.

校区の安全マップ（〇〇小学校）



平成28年5月2日

## 子どもたちの心身の健康に対する対応について

〇〇小学校 保健室

### 1 健康観察における健康チェックの実施

- ① 9日～13日 特別な健康観察表（別紙）を用いて、詳しい観察を行う。
- ② 出欠状況、病気の有無、睡眠、食欲、心、登下校についてチェック、記入をする。
- ③ 特に、9日は一人一人丁寧に顔を見ながら、表情もチェックする。
- ④ 担任は、記入後、1時間目終了までに養護教諭へ提出する。
- ⑤ 気になる子どもについては養護教諭へ伝える。養護教諭が管理職へ報告する。
- ⑥ 養護教諭が2部コピーして、1部は担任へ、1部はホワイトボードに貼る。

### 2 日常の健康観察の実施

- ① 全職員で気づきがあれば、各担任や養護教諭へ伝える。必要があれば管理職へ伝える。

### 3 「心と体の健康観察（小学生用）」アンケートの実施

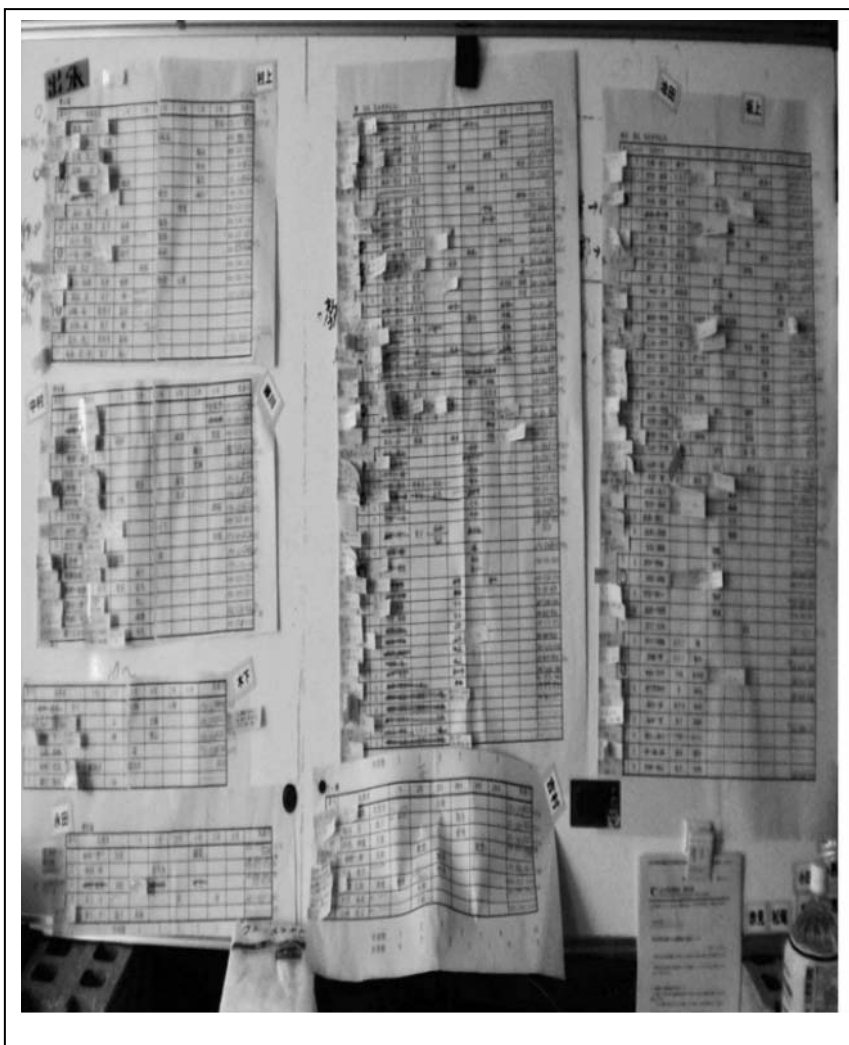
- ① 時期は様子を見て実施（6～7月）
- ② 事前に保護者へお知らせをする。
- ③ 必要があれば児童への個別相談を行う。
- ④ 職員全体へ共通理解を図る。（児童理解）

### 4 その他

- ① 保健室からほけんだより等でストレス対応やカウンセリングについて啓発する。
- ② 保健室での健康相談は随時行う。
- ③ SC等のカウンセリング希望については、随時対応できるように養護教諭が調整する。
- ④ しばらく時間がたってから、起こる反応 PTSD に注意していく。
- ⑤ 心のケアチームと連携して、ストレッチや心と体のリラックプログラムを計画的に実施していく。

## 5月9日までの情報収集と登下校の確認 ○○小学校

P数は約150。全家庭分をホワイトボードに貼り情報を一括管理し、付箋の色で情報を分けて表示し可視化。



情報の内容は確認事項が主であった。

児童・保護者の安否

どこに避難しているか避難場所、  
遠くに避難した児童の生活状況、  
通学路

についてで、変更があるときには  
付箋紙の色を替えて、重ねて貼っ  
ていった。

## 学校再開直後の健康観察

## △△小学校

クラスごとの健康観察項目に登下校についての確認事項を含め、安全確保にも活用した。

○年○組		5月9日		健康観察			登下校について		
名前	なまえ	体の様子	昨日よく 眠れた か	食欲は あるか	心配な ことがある か	今日の登校方法	今日の下校場所	今日の下校方法	
1						登校班・車・( )	自宅・学童・( )	登校班・車・( )	
2						登校班・車・( )	自宅・学童・( )	登校班・車・( )	
3						登校班・車・( )	自宅・学童・( )	登校班・車・( )	
4						登校班・車・( )	自宅・学童・( )	登校班・車・( )	
5						登校班・車・( )	自宅・学童・( )	登校班・車・( )	

こころ からだ けんこうかんさつひょう  
**心と体の健康観察表**

年 組 番号 名前

1・2は時刻、3～6は記号、7・8はあてはまる番号を毎日書いて下さい。


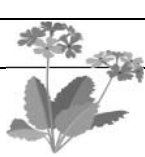
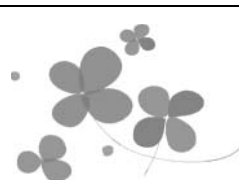
NO	こゝろ 項目	6/13(月)	6/14(火)	6/15(水)	6/16(木)	6/17(金)
1	きのう よる ね じこく 昨日の夜、寝た時刻	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分
2	きょう あさ おきた じこく 今日の朝、起きた時刻	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分
3	よくねれましたか？ よく眠れた◎ まあまあ○ 眠れなかった×					
4	あさ はん た 朝ご飯を食べましたか？ しっかり食べた◎ 食べた○ 食べなかった×					
5	うんこは出ましたか？ 出た○ 出ない×					
6	からだ ちょうし 体の調子はどうですか？ よい◎ ふつう○ わるい× ×のときはどうあるのか書きます					
7	きょう きぶん 今日の気分は？ ① ② ③ ④ 					
8	今日の下校はどうしますか？ ①徒歩で下校 ②スクールバスで下校 ③学童 ④放課後子どもクラブ ⑤ガッツ学習塾 ⑥その他( )					

心配なこと、お気づきがあれば書いてください。



カウンセリングや相談を受けるあなたへ（中学生用） 実際は見開きA3サイズ

年 組 氏名

質問1 最近、体の調子はどうですか？
<p>ア いい イ まあまあ ウ あまり良くない エ 良くない</p> <p>ウ・エと答えた人は次の質問に教えてください。</p> <p>① 自分に当てはまるものに○をつけましょう。</p> <p>頭がいたい お腹がいたい 下痢 便秘 下痢と便秘をくり返す むかむか・吐き気がする のどがつまった感じ 朝起きれない 眠れない</p> <p>② 体のことで最近病院に行きましたか。 はい いいえ</p>
質問2 最近、こころの調子はどうですか？
<p>ア いい イ まあまあ ウ あまり良くない エ 良くない</p> <p>ウ・エと答えた人は自分に当てはまるものを選んでください。</p> <p>イライラする 悲しい さびしい 気持ちが落ち込む おこりっぽい 集中できない ひとりぼちな感じ 今まで楽しかったことが楽しめなくなっている</p> 
質問3 最近の睡眠はどうですか？
<p>ア いい イ まあまあ ウ あまり良くない エ 良くない</p> <p>ウ・エと答えた人は自分に当てはまるものを選んでください。</p> <p>寝付きが悪い 夜中に目が覚める 目が覚めるとなかなか寝付けない いやな夢をみる 眠った感じがしない いつも眠い 寝過ぎる 朝起きるのが辛い 1人で寝るのが怖い</p>
質問4 最近の食欲はどうですか？
<p>ア いい イ まあまあ ウ あまり良くない エ 良くない</p> <p>ウ・エと答えた人は自分に当てはまるものを選んでください。</p> <p>食欲がない 食事よりもおやつを食べることが多い たくさん食べてしまう 食べたら吐くことがある</p>
質問5 相談したいこと、聞きたいこと、心配なことを書いてください。

質問6 あなたが相談することを、おうちの人を知っていますか。
<p>ア 内容も知っている イ 内容は知らない相談することは知っている</p> <p>ウ 今は知らないが話すつもりだ エ 学校の先生から伝えて欲しい</p> <p>オ 話すつもりはない</p>
質問7 相談するにあたって学校の先生に言っておきたいことがあればお書きください。
<p>★ 学校生活で困っていることなど、書ける範囲で気楽に書きましょう。</p> 

★最後まで書いてくれてありがとうございました。書き直したい時はいつでも来てください。

災害後の心のアンケート（職員用） H28. 5. 30 配布 ○○中学校 実際はA4サイズ

災害後、先生方は、すぐに子どもの安否確認や保護者対応・個別相談、地域の見守り、また自衛隊・物資輸送者・マスク対応など様々な関わりをしていただきました。休日出勤をされた（されている）先生も多数おられます。先生方のご家庭や地域でも地震後のケアなどが必要な中、南阿蘇中のために一生懸命動いていただいたお陰で、再開ができたのではないかと思います。ありがとうございます。しかし 4 月から同じ職場で働くようになった職員同士ではありますが、まだお互いをよく知らないままの状態です。頑張りすぎているかもしれません。子どもの心のケアと同じく、先生方の心とからだのケアも必要ではと考えています。

そこで、先生方の今の状況や思いを聞き、何が今必要なか、何が自分のできるのかを考えるべくアンケートをとらせていただきたいと思います。お答えできる範囲でいいです。封筒に入れて養護教諭の机の封筒までお返してください。お忙しい時に申し訳ありません。

1 余震・本震の影響で、ご自宅（生活していた場所）はどうになりましたか？

例・壁（外も内部も）に亀裂が入った。玄関ドアが開かなくなり、裏口から入っている。



2 現在、どこに住んでいますか？ ○をつけてください。

元の自宅	震災後引っ越した家	実家	親戚の家	避難所	その他

3 寝る場所はどこですか？ ○をつけてください。

( ) 2で答えた場所 ( ) 車の中 ( ) その他

元の自宅	震災後引っ越した家	実家	親戚の家	避難所	車の中

4 震災後の休校中に仕事上、困ったことはどんなことでしたか？ 例・何をしていたか分からなかった

5 震災後の休校中にプライベート上、悩んだり困ったりしたことはどんなことでしたか？

例・家族が心配だが出勤した。通勤距離が長くなり眠気。電気も水も通らず、お風呂にも入れなかった。なぜかイライラした。

6 現在、困っていることはありますか？ どちらかに○をつけてください。 はい いいえ

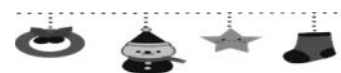
7 その他（思っていることがあれば・・・）



職員向けアンケート No.2 H28. 12. ○○中学校 実際はA4サイズ

日々、お疲れ様です。体、心の疲れ具合はいかがですか？休養がとれない、思うように気持ちのコントロールができない、忙しくて自分のことを後回しにしている・・・といった先生もいらっしゃるのではないのでしょうか。先生方の心と体のケアも大切です。1学期にも震災後のアンケートをご記入いただきましたが、2学期の最後、再度先生方の思いを聞き取れたらと思い、実施することにしました。書ける範囲で良いので、ご記入いただければ幸いです。名前は書かなくてもいいです。12/22締め切り

1 食欲はありますか？（はい いいえ） 朝食は（食べる 食べない）



2 よく眠れていますか？（はい いいえ） 睡眠時間は（ 時間くらい）

目覚めは（良い 悪い） 二度寝は（すき きらい）

3 健康診断、人間ドックに行きましたか？（はい いいえ これから）

4 休日は休めていますか？（はい いいえ）

5 今、体調で気になることはありますか？（はい いいえ）



6 防災グッズを家庭に用意していますか？（はい いいえ）

5 特に被害がひどかった生徒、仮設住宅等で環境が変わった生徒や保護者について、関わりの中で気になるつぶやき、行動などがありましたか

（あった なかった）

6 8ヶ月が経ちましたが、4、5月からの変化や困っていること、不安などはありますか

（ある・ない）

（例：お酒の量が増えた、通勤距離が長く帰りが遅くきつい、などなんでも）

7 ご自身のストレス発散法を教えてください。



うらもチェックしてみてください

## ストレス反応の自己判断

- 周囲から冷遇されていると感じる
- 自分が偉大なように思えてしまう
- 同僚や上司を信頼できない
- ものごとに集中できない
- すぐ腹が立ち、人を責めたくなる
- 状況判断や意思決定をよく誤る
- よく眠れない
- じっとしてられない
- 人と付き合いたくない
- イライラする
- 発疹が出る
- 向こう見ずな態度をとる
- 休憩や休息をとれない
- けがや病気になりやすい
- 何をしてもおもしろくない
- 不安がある
- 頭痛がする
- 酒やたばこが増える
- 気分が落ち込む
- 「問題がある」と分かりながら考えない
- もの忘れがひどい



日本赤十字社「災害時の心のケア」より

チェックした数 ( ) 個

6個以上ある人は注意してください。カウンセリングを受けられるようにお勧めします。

カウンセリングは特別なことではありません。自分の気持ちの整理、把握、考え方などに役立つものです。SCの活用もいいですよ。守秘義務がありますので、内容がもれることはありません。(私にも) 木曜日にぜひご活用ください。

よければ○をつけてください。

- ① 相談は希望しない ( )    ② 保健室で話したい ( )    ③ SCに話したい ( )

②③に○をつけた人  
氏名 \_\_\_\_\_

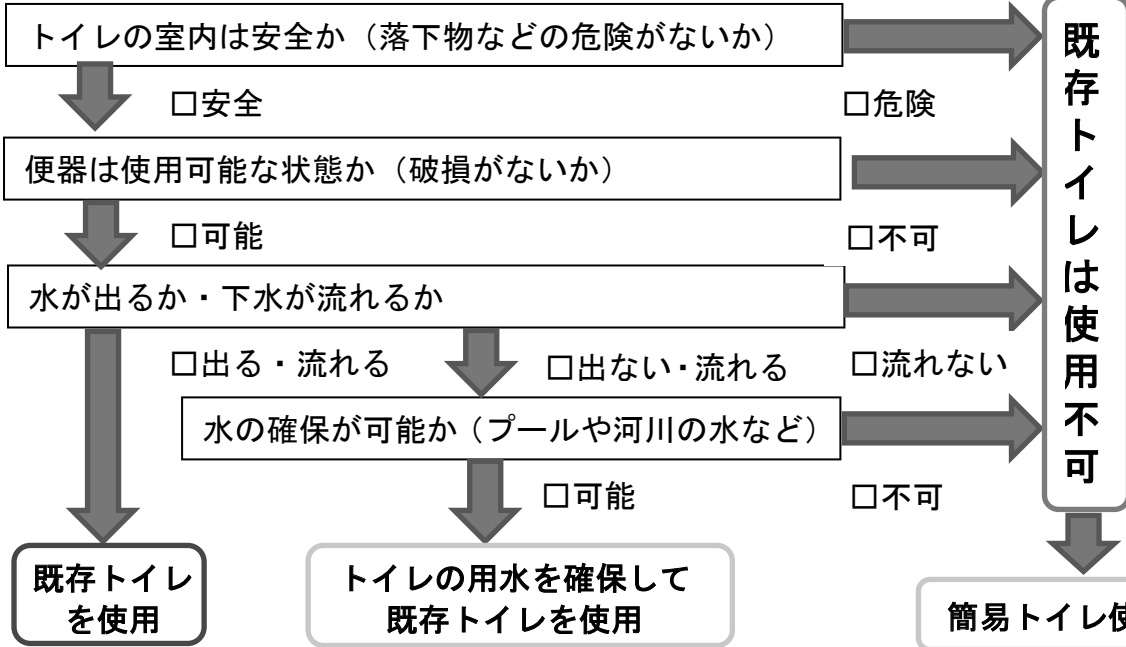
# 資料

あったらよかった編

# 災害時トイレ対応

## 既存トイレの確認

既存トイレは排水先の状況把握が済んでから使用する



- ① プール等より水を運搬する  
（バケツ式に避難者で協力）
  - ② バケツ等に水を溜める
  - ③ 洗面器やボールで汲んで流す
- ☆ペーパーは便器に流さずゴミ袋を用意し捨てる
- 定期的なトイレ清掃



・携帯トイレや簡易トイレ使用



段ボール  
新聞紙  
レジ袋  
テープなど

・段ボールトイレ（即席便器）作成

☆汚物は一般ゴミと分け屋外に集積

○張紙掲示による周知

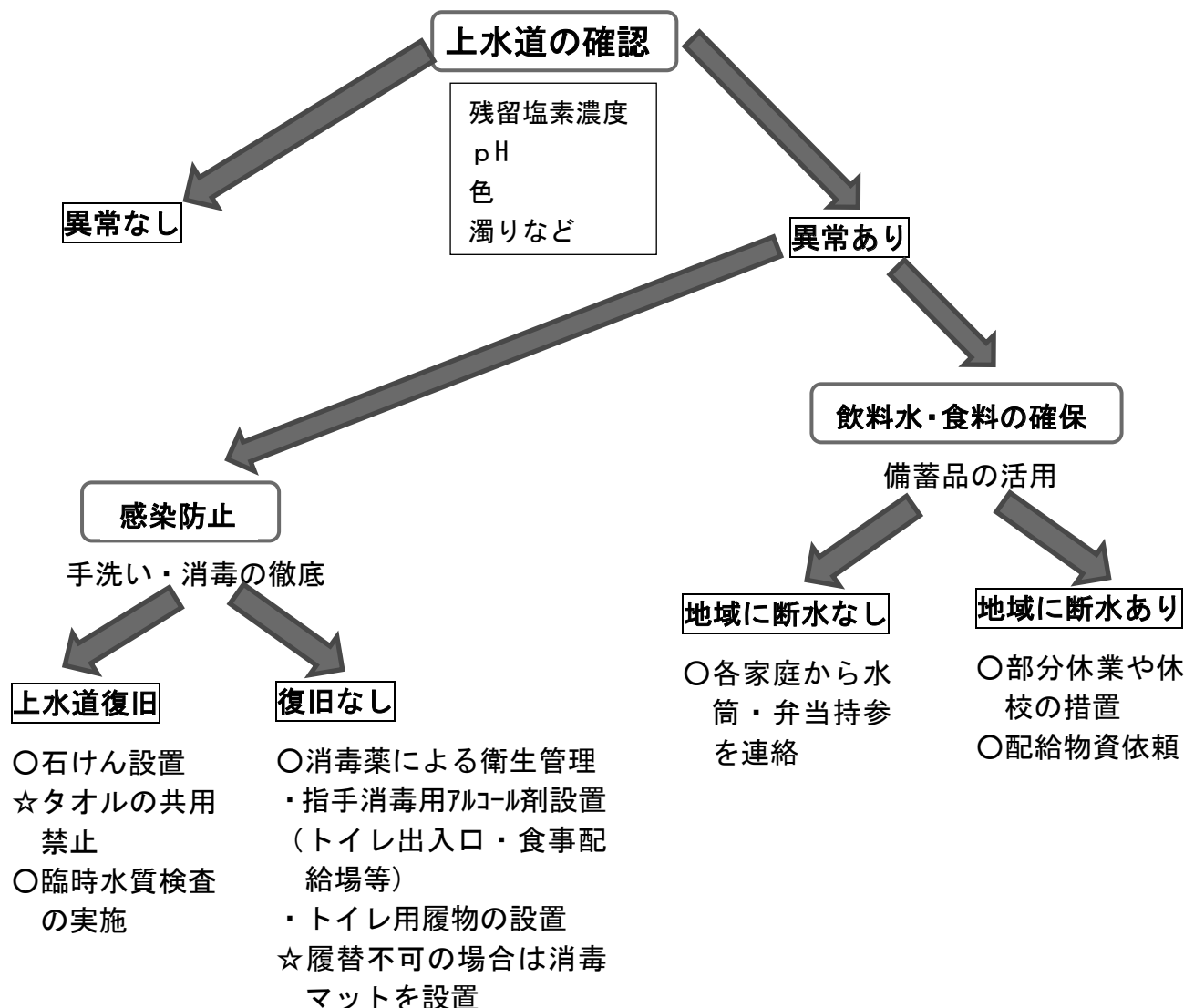
## 仮設トイレ到着



☆ペーパーは便槽に投棄せずゴミ袋を用意し捨てる

☆ピラミッド状に積みあがるし尿は棒などで平坦にして使用を続ける

# 地震後の上水道の異常



【 水の使用判断例】 ◎:最適な使い方 ○:使用可 ×:使用に不適

水	飲料用	手洗い用	風呂用 洗濯用	トイレ用
	調理用	洗顔用		
	歯磨き用	食器洗い用		
飲料用( ペットボトル)	◎	○	×	×
避難所の受水槽				
非常用飲料水貯水槽	◎	◎	○	○
給水車の水				
浄水器の水	○	◎	○	○
プールの水				
河川や溜池の水	×	×	×	◎

兵庫県企画県民部災害対策局災害対策課作成『避難所等におけるトイレ対策の手引き』より引用

# 地震後の遊具臨時安全点検表

点検日(平成 年 月 日) 点検者( )

校長	教頭	安全担当

共通点検事項		施設名	鉄棒	滑り台	ブランコ	ジャングルジム	雲てい	登り棒	シーソー	総合ジム
①	各部	身体に触れる部分に鋭利な状態等はないか								
②	落下防止	落下防止柵などにガタツキや変形はないか								
③	支柱部	部材に亀裂、劣化はないか								
		ぐらつきはないか								
④	基礎部	設置面へ基礎が露出してないか								
⑤	着地面・周辺	着地面や遊具周辺に大きな凸凹や石などはないか								
⑥	接合部	ボルトの緩みや欠落はないか								
		継手金具の破損はないか								
⑦	塗装・メッキ	著しい塗装剥離や退色、錆の発生等はないか								
⑧	汚れ・異物	著しい汚れや落書き、異物等はないか								

※チェック欄には、異常がなければレ印を、異常があれば×印を記入し、備考欄に詳しい状況を記入する。

備考欄

# 外部支援者（緊急S C等）のための学校紹介シート

〇〇学校

災害後の学校の状況を簡単に書き込みます。

<b>全校生徒</b> ( 2 5 5 ) 人	<b>クラス数</b> ( 9 ) 学級 <b>特別支援学級</b> 知的 ( 1 ) 学級 情緒 ( 1 ) 学級 肢体不自由 ( 1 ) 学級	<b>職員数</b> ( 3 2 ) 人
----------------------------	--	-------------------------

## 学校・地域の様子

- 本校の体育館に避難所が開設された。避難所生活を経験した数は半数程度で、現在は自宅や仮設住宅やみなし仮設で生活している。
- 現在、仮設住宅から登校している生徒は約30人。  
町外に転校した生徒は3人。長期避難地区の生徒のため、寄宿舎が開設。
- 職員の疲れが見えてきた。
- 有名人や芸能人の訪問が多く、表面上は元気であるように見える。
- もともと登校を渋っている生徒が3名いたが、災害後は登校できずにいる。
- 心のチェックシートで気になっている生徒は10人いる。被害の大きさに関わらない。

## 留意していること

- 現在、避難所で生活 ( 0 ) 人
- 現在、仮設住宅で生活 ( 4 5 ) 人
- 以前、車中泊を経験 ( 1 0 4 ) 人
- 災害により家族と離れて生活している生徒が5名いる。忘れ物等があった場合、職員は指導の際は気をつけている。
- 親類(叔父、叔母)を亡くしている生徒がいる。会話の中で「死」等を連想させることは避けている。
- 生活環境や自宅が変わったために、保健室にて本来は行わない継続的な処置(湿布の張り替え、絆創膏の張り替えなど)をすることがある。

## 保健室から

- 健康診断や、準備などがありますので打ち合わせの時間がとれないことが多いと思います。
- カウンセリングルーム、相談室といった場所が確保できませんので、その時に開いている部屋や教室を使わせていただくこととなります。
- カウンセリング個別票への記入をお願いします。



熊本地震に関するアンケート 学校名 ( ) TEL ( )-( )-( )	
<b>【被害状況】</b>	
1 地震発生直後の学校施設の被害程度	1 だいぶ被害があった 2 さほど大きな被害はなかった 3 全く被害がなかった
2 地震発生直後の保健室の施設設備の被害程度 ※どれか1つ	1 しばらく使用できない程度の被害があった 2 棚が倒れたり、物が破損したり片づけに時間を要した 3 ものが倒れたり、散乱したりしたが片づけて使用できた 4 あまり影響はなかった 5 全く影響なかった
<b>【休校中】</b>	
3 学校の休校はありましたか？ 休校した学校は再開した月日を教えてください	1 あった → 月 日から 2 なかった
<b>【避難所対応】</b>	
4 学校が避難所になっていましたか？	1 なっていた → 避難所の場所 ア 体育館のみ イ 体育館と教室 ウ 教室のみ エ 廊下 オ 運動場 カ 武道場 キ その他( ) 2 なっていなかった
5 あなたが避難所対応で行ったことがあれば記号に○をつけてください	ア 炊き出し イ 物品配給 ウ 衛生管理(消毒) エ 応急処置 オ 避難所の住民の健康相談 カ ボランティア指導 キ 外部との連絡調整 ク 避難している児童生徒のケア ケ その他( )
<b>【学校再開後】</b>	
6 学校再開時、避難所として使用されていましたか？	1 使用されていた → その後の状況は？ ア 避難者が残っていたが今はいない イ 今も避難所 2 使用されていない
7 学校行事の変更(中止・延期等)はありましたか？ 変更した行事の記号に○をつけてください	1 あった → ア 遠足 イ 健康診断 ウ 家庭訪問 エ 運動会 オ その他( ) 2 なかった
8 給食の変更はありましたか？ 変更した内容の記号に○をつけてください	1 あった → ア 簡易給食があった イ 給食中止となった ウ その他( ) 2 なかった
<b>【心のケア】</b>	
9 児童生徒の心のケアについて職員へ資料を配布したり、紹介したりしましたか？ 夏休み前までにを行った回数の記号に○をつけてください	1 した → ア 1回 イ 2回 ウ 3回 エ 4回以上 2 していない
* 配布された学校は、どのような資料を利用されましたか？	ア 文部科学省H22.7 イ 文部科学省H26.3 ウ 日本学校心理士会より エ 静岡大学より オ その他( )
10 児童生徒の心のケアについての校内で研修がありましたか？ * 実施された学校は、どのような研修をされたか教えてください。	1 あった 2 なかった
11 児童生徒を対象とした心のケアに関する集団指導をされましたか？ (お便り、集会、保健指導、掲示物など) * 実施された学校は、どのような取組をされたのか 教えてください。	1 した 2 していない
12 児童生徒の心のケアについて、保護者への啓発をされましたか？ お便り、メール配信、学級懇談、学校保健委員会など、 * 実施された学校は、どのような啓発をされたか教えてください	1 した 2 していない
13 あなたの学校に夏季休業中前までにSCの派遣はありましたか？ 派遣形態について記号に○をつけてください。	1 あった → ア もともと配置されていたSCの時数が増えた イ 県内のSCが来てくれた。 ウ 県外からの緊急SCが来てくれた。 2 なかった
14 SCの派遣で良かった点や今後の改善につながる点があれば、お書きください	良かった点 今後の改善につながる点
15 カウンセリングに対して養護教諭が行っているものはどれでしたか？	1 対象児童生徒の選定や抽出 2 カウンセリングの日時の設定や配当 3 カウンセラーへのつなぎ、カウンセリングの部屋への誘導 4 対象児童生徒について、カウンセラーへの事前情報提供 5 対象児童生徒のカウンセリング結果について、カウンセラーからの聞き取り 6 結果について、担任への報告 7 結果について、保護者への報告 8 カウンセリング記録の保管 9 その他 ( ) 10 カウンセリング対象者があまりいなかったため、関わっていない
16 2学期開始時点(8月31日の地震を除く)で地震の影響が考えられる気になる児童生徒はいましたか？	1 いた 2 いなかった
17 今回の地震を通して、危機意識を持ったことをお書きください。	

熊本地震に関するアンケート集計表		荒・玉	山鹿	菊池	阿蘇	熊本市	上益城	宇城	八代	人・球	水・芦	天草	合計	
回答数		61	23	42	29	140	32	34	46	38	21	57	523	
1	地震直後の学校の被害	1 だいぶ被害があった	1	0	11	5	47	11	7	1	0	0	83	
		2 さほど大きな被害はなかった	44	14	31	22	90	20	23	44	7	8	17	320
		3 全く被害がなかった	16	9	0	2	3	1	4	1	31	13	40	120
2	地震直後の保健室の施設設備の被害状況	1 しばらく私用できない程度の被害があった	1	0	2	2	6	1	1	0	0	0	1	14
		2 棚が倒れたり、物が破損したり片づけに時間を要した	0	0	4	3	36	3	2	0	0	0	0	48
		3 物が倒れたり、散乱したりしたが片づけて使用した	6	2	17	8	63	15	15	10	0	2	0	138
		4 あまり影響はなかった	12	3	11	11	24	3	8	12	1	0	3	88
		5 全く影響はなかった	42	18	8	5	14	10	8	24	37	19	53	238
3	休校はありましたか	1 あった	42	7	42	29	140	32	34	46	0	4	1	377
		月 日から												0
		2 なかった	19	16	0	0	0	0	0	0	38	17	56	146
4	学校が避難場所になっていましたか	1 なっていた	28	1	28	20	134	20	26	32	1	6	7	303
		ア 体育館のみ	19	0	15	7	33	8	14	21	1	5	4	127
		イ 体育館と教室	0	0	8	9	87	6	5	4	0	0	0	119
		ウ 教室のみ	0	0	1	2	14	1	3	0	0	0	0	21
		エ 廊下	1	0	2	2	42	2	2	1	0	0	0	52
		オ 運動場	3	0	5	3	56	7	7	6	0	0	0	87
		カ 武道場	0	0	1	1	16		1	2	0	0	0	21
		キ その他	6	1	2	4	11	3	4	7	0	1	3	42
		2 なっていなかった	33	22	14	9	6	12	8	14	37	15	50	220
		5	あなたが避難所対応で行ったことは	ア 炊き出し	0	0	1	2	58	1	1	1	0	0
イ 物品配給	0			0	3	5	103	9	9	3	0	0	0	132
ウ 衛生管理(消毒)	0			0	10	7	116	7	3	12	0	0	0	155
エ 応急処置	0			0	1	1	64	3		3	0	0	0	72
オ 避難所の住民の健康相談	0			0	0	1	51	5	1	3	0	0	0	61
カ ボランティア指導	0			0	0	0	33	1		0	0	0	0	34
キ 外部との連絡調整	0			0	0	3	41	2	2	1	0	0	0	49
ク 避難している児童生徒のケア	0			0	4	12	39	13	10	6	0	0	2	86
ケ その他	0			0	3	3	28	2	5	13	1	0	1	56
6	学校再開時避難所として使用されていましたか	1 使用された	0	0	4	13	56	11	22	17	0	3	1	127
		ア 避難者が残っていたが今は残っていない	0	0	4	13	40	11	22	17		0	0	107
		イ 今も避難所	0	0	0	0	14		0	0		0	0	14
		2 使用されていなかった	58	23	38	16	82	21	12	29	38	18	56	391
7	学校行事の変更	1 あった	39	9	42	28	139	31	34	46	4	11	9	392
		ア 遠足	0	0	20	7	85	16	11	18	2	1	4	164
		イ 健康診断	0	0	31	22	127	26	28	41	0	5	0	280
		ウ 家庭訪問	0	0	39	25	131	28	31	35	0	2	0	291
		エ 運動会	0	0	8	12	53	19	10	5	0	0	1	108
		オ その他	0	9	5	7	33	4	6	4	2	6	5	81
		2 なかった										10		

熊本地震に関するアンケート集計表		荒・玉	山鹿	菊池	阿蘇	熊本市	上益城	宇城	八代	人・球	水・芦	天草	合計		
回答数		61	23	42	29	140	32	34	46	38	21	57	523		
8	給食の変更	1	あった	38	7	27	13	69	25	29	13	9	3	10	243
	ア	簡易給食	0	0	23	13	53	25	25	6	0	0	2	147	
	イ	給食中止	0	0	0	2	16	2	0	2	1	0	0	23	
	ウ	その他	0	7	3	0	0	7	4	6	8	3	8	46	
	2	なかった	23	16	15	16	71	5	1+4	1+3	29	18	47	240	
9	児童生徒の心のケアについて資料の配布や紹介	1	した	54	14	40	26	139	31	33	45	24	14	32	452
	ア	1回	0	7	11	4	37	4	7	13	19	9	23	134	
	イ	2回	0	6	18	4	54	13	13	20	3	2	7	140	
	ウ	3回	0	0	7	8	32	4	4	9	1	3	1	69	
	エ	4回以上	0	1	3	10	16	10	9	3	1	0	1	54	
	2	なかった	0	9	2	0	1	1	1	1	14	7	25	61	
	配布に利用した資料	ア	文部科学省H22. 7	0	6	10	3	72	19	10	15	4	2	7	148
	イ	文部科学省H26. 3	19	7	17	11	72	11	17	22	8	3	11	198	
	ウ	日本学校心理士会より	0	6	14	14	73	10	13	24	7	6	1	168	
	エ	静岡大学より	0	1	5	8	90	7	20	11	10	6	14	172	
	オ	その他	0	0	24	16	53	14	16	12	3	4	9	151	
10	児童生徒の心のケアについて校内研修	1	あった	0	7	32	17	113	26	28	18	7	4	11	263
	2	なかった	48	16	10	12	27	6	6	28	31	17	46	247	
11	心のケアに関する集団指導	1	した	26	7	37	27	113	30	30	35	12	5	11	333
	2	しなかった	35	16	5	2	27	2	4	11	26	16	46	190	
12	児童生徒の心のケアについて保護者への	1	した	33	13	40	27	129	29	30	36	13	7	22	379
	2	していない	28	10	2	2	11	3	4	10	25	14	35	144	
13	夏季休業中までにSCの派遣があったのか	1	あった	0	5	35	25	140	31	31	33	3	1	3	307
	ア	もともと配置されていたSCの時数が増えた	0	0	11	0	41	7	8	2	1	1	0	71	
	イ	県内のSCが来てくれた	0	0	27	23	18	25	23	32	1	0	3	152	
	ウ	県外からの緊急SCが来てくれた	0	0	2	4	125	9	1	0	1	0	0	142	
	2	なかった	51	18	7	4	0	1	3	9	35	20	54	202	
15	カウンセリングに対して養護教諭が行っているもの	1	対象児童の選定や抽出	25	10	29	22	108	27	26	29	2	4	10	292
	2	カウンセリングの日時の設定や配当	20	10	28	18	95	27	20	24	0	2	4	248	
	3	カウンセラーへのつなぎ、カウンセリング部屋への誘導	20	11	32	15	101	29	26	25	0	2	5	266	
	4	対象児童生徒についてカウンセラーへの事前情報提供	19	9	30	17	104	26	23	25	1	2	8	264	
	5	対象児童生徒のカウンセリング結果についてカウンセラーからの聞き取り	20	10	35	17	107	27	26	27	0	3	7	279	
	6	結果について、担任への報告	19	11	28	12	93	27	23	26	0	3	4	246	
	7	結果について、保護者への報告	3	5	6	4	14	10	9	7	0	0	0	58	
	8	カウンセリング記録の保管	17	9	28	17	90	22	20	17	0	1	2	223	
	9	その他	1	3	1	3	14	2	4	3	0	0	1	32	
	10	カウンセリング対象者があまりいなかったため、関わっていない	19	8	3	5	9	2	4	7	1	13	31	102	
16	2学期開始時点での気になる児童生徒の存	1	いた	3	4	17	13	83	20	15	6	1	1	0	163
	2	いなかった	58	19	25	16	57	12	19	40	37	20	57	360	

学校名 TEL ( )-( )-( )

設設問が多く、お手数をおかけするかと思います。養護教諭として行ったことについて、該当する項目への回答を記述をお願いします。

[休校中]	
1	安否確認についてしたこと
2	健康状態の確認についてしたこと
3	学校再開に向けての準備期間として養護教諭が行ったこと
ア	児童生徒に対して行ったこと
イ	施設・設備に関して(通学路なども含めて)行ったこと
ウ	環境衛生面に関して(ライフラインなど)行ったこと
エ	その他
4	休校中の執務で大変だった点、良かった点今後の改善につながると思われる点について
[避難所対応]	
5	避難所対応で大変だった点や良かった点、今後の改善につながると思われる点について
[学校再開後]	
6	心身の健康観察の充実について
7	児童生徒へのアンケートの実施・実態把握について
8	保護者・担任へのアンケートの実施・実態把握について
9	学校医との連携について
10	学校保健委員会での協議内容について
11	養護教諭・教職員による相談活動の充実について
12	その他

## 編纂委員後記

### 南阿蘇中学校 荒牧亜紀子

平成28年4月、生徒、保護者、地域の方々の大きな期待の中、南阿蘇中学校が開校しました。しかし、1週間も経たないうちに熊本地震が発生。崩落した阿蘇大橋や校区内の震災の様子など、信じられない光景を目の当たりにし言葉を失いました。「家はなくなってしまったけど命があって良かったです」と力強く話される保護者、被災者でありながら避難所でのボランティア活動を率先して行っている生徒の姿などから、南阿蘇の子どもの命と心をしっかり守りたいと強く感じたことを思い出します。今回、当時の出来事や養護教諭としての活動を振り返る中で、+α（新たな視点）を加えて職務を果たすことや、地域と関わることの大切さを実感することができました。そして、私たち養護教諭の心身の健康が、家族はもちろん児童生徒、教職員にとって必要不可欠であることも。

最後に、あの日から皆さま方には沢山の支援や励ましの言葉をいただき、本当にありがとうございました。

### 御船小学校 内村 加奈子

平穏な日常が一瞬で壊れた2度の大地震・・・2年近く経った今もあの恐怖は忘れられません。その当時は無我夢中で学校の子どもたち、家族をただ『守る』ため、自分自身も『生きる』ためだけに働いていたように思います。今回、編纂委員として、当時の皆さんの取組や思いにふれ、自分自身のことも客観的に振り返ることができました。貴重なご意見、取組等大変参考になりました。また、編纂委員の先生方と一緒に作業をしながら、様々な体験や同じような思いをしていたこと等、たくさん話ができたとともに宝物となりました。この辛い経験があったから、人の絆の大切さをしみじみ感じることもできました。地震後の混乱のさなか、アンケートにご協力頂いた会員の皆様に感謝するとともに、二度とこのような災害が起きないことを願うばかりです。

### 益城町立広安西小学校 江崎 賀子

熊本地震で2度、震度7を記録した益城町に赴任したばかりの私は、不安で胸がいつぱいになったことを思い出します。学校は避難所になり、保健室は避難所の救護室になりました。感染症の対策に追われました。子どもたちの心のケアにどう取り組んでいくのか悩みました。そんな中、県内病院をはじめとした医療チーム、災害派遣の薬剤師さん、保健師さん、臨床心理士の方々、養護教諭の仲間等々たくさんの人に支えられ乗り切ることができました。失ったもの以上に、かけがえのない経験や出会いを与えていただきました。

この経験をいつかまとめたかったと思っていたところ、編纂委員のお話をいただきました。微力ではありますが、私の経験がお役に立てばと思い、引き受けさせていただきました。たくさん先生方のご協力があって、この冊子が完成しましたことを心から感謝しております。ありがとうございました。

## 編纂委員後記

田原小学校 永田 志保

震災後に出勤する道中、ボンネットに「災害復旧支援」と書かれた県外ナンバー車両とすれ違う度に胸が熱くなっていたことを回想します。本校のある植木町はライフラインにほとんど影響がなく、学校再開も熊本市内で一番早かったと記憶しています。

ひとくくりに熊本県と言っても、被害状況に地域差が随分大きかったように思います。

心のケアに関しても、ストレス反応の強さやあらわれ方には個人差が大きく、SCをはじめ専門機関と連携をとりながら組織で対応していく実際的な方法を学びました。

ごく当たり前の日常がいかにより難い幸せなものなのかも体感しました。あれからまだ2年、もう2年…年月とともに「記憶」は確実に薄らいでおり、改めて「記録」の大切さを考えます。ひとりじゃない、つながりあえる熊本県養護教諭研究会の一員として本冊子作成に携われた好機に感謝し、すべての先生方にお礼を申し上げます。

山東小学校 泉 由紀

私の居る所は学校も自宅も被害がほとんどない地域でした。ただ、実家は築60年で部屋の土壁が落ち食器や本やテレビが飛び散り、ブロック塀が道路に向けて倒れていました。「まさか、こんなことが」と驚いたことを覚えています。その後毎日、何かをしながら過ごしたのですが、覚えていないことのほうが多いようです。

忘れてしまう前にこの体験を形に残すこととなり編纂委員を、様々思い出されてつらいのではないかと考えましたが被害が大きかった地区の先生にお願いしました。快く引き受けていただきました。その先生方の話し合いをもとに、日常からの備えに生かせるように「資料 やったこと編」「資料 あったらよかった編」を報告書に加えました。また、被害の大きさに関係なく全県下から集められた自由記述部分をどうにか分かりやすいものにしたとの思いで報告書を作りました。

表紙の写真は雲海の写真をとるために、地震の前の年の11月に阿蘇へ行き、撮った朝日の中の阿蘇五岳と「ラピュタの道(天空の道)」です。ラピュタの道は熊本県の阿蘇市道狩尾幹線の通称で、今はこの風景はもうありません。

「忘災」という言葉があるそうです。月日がたっても「防災」を「忘災」にしないようにと思うばかりです。

アンケート作成と集計に協力いただいた平成28年度の理事、専門委員、四役。

理事

渡辺真知子 廣田リエ 角田千佳 内野佳子 坂梨美与子 佐成美帆

内村加奈子 谷川久美子 簗田 和美 福永やよい 谷口美加 角本郁子

専門委員

田上法子 徳永久美 吉田綾子 大塚さと子

四役

田中茂都美 四ッ村智子 平岡佳織 松野美津子 奥井誉子 泉由紀